

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年6月25日

**【事業年度】** 第49期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

**【会社名】** 国際計測器株式会社

**【英訳名】** KOKUSAI CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 松本博司

**【本店の所在の場所】** 東京都多摩市永山六丁目21番1号

**【電話番号】** 042 - 371 - 4211

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長 松本進一

**【最寄りの連絡場所】** 東京都多摩市永山六丁目21番1号

**【電話番号】** 042 - 371 - 4211

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長 松本進一

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	13,076,914	16,747,598	14,920,434	11,088,506	11,481,607
経常利益 (千円)	2,267,363	3,499,472	2,253,137	957,179	1,400,850
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	1,336,704	1,866,607	1,315,048	547,891	867,582
包括利益 (千円)	1,723,124	2,351,497	1,045,660	662,970	1,022,229
純資産額 (千円)	8,189,546	9,811,908	9,946,566	9,838,688	10,510,532
総資産額 (千円)	17,080,635	19,890,432	17,317,298	16,448,384	16,188,605
1株当たり純資産額 (円)	581.08	696.05	704.98	696.21	742.84
1株当たり当期純利益 (円)	95.37	133.18	93.82	39.09	61.90
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	47.7	49.0	57.0	59.3	64.3
自己資本利益率 (%)	17.7	20.9	13.3	5.5	8.6
株価収益率 (倍)	12.1	13.7	13.5	21.7	15.4
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,970,054	2,435,630	98,823	691,096	638,609
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	13,893	449,463	403,980	367,168	28,404
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	833,660	1,105,885	939,505	942,355	830,400
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	2,788,771	3,734,916	3,188,780	2,447,874	2,159,704
従業員数 (人)	314	314	328	325	320

- (注) 1 連結売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 3 自己資本比率及び自己資本利益率を算定する際の純資産額は、前者については期末金額で、後者については期中平均の金額で算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	10,171,438	13,880,281	10,638,589	8,340,340	8,639,581
経常利益 (千円)	2,196,956	3,517,590	1,494,989	862,874	1,491,703
当期純利益 (千円)	1,320,851	2,014,197	819,134	550,634	1,045,329
資本金 (千円)	1,023,100	1,023,100	1,023,100	1,023,100	1,023,100
発行済株式総数 (株)	14,200,000	14,200,000	14,200,000	14,200,000	14,200,000
純資産額 (千円)	5,408,500	6,752,745	6,619,824	6,544,025	7,394,826
総資産額 (千円)	12,658,267	14,323,638	11,927,449	11,825,105	11,652,806
1株当たり純資産額 (円)	385.90	481.81	472.32	466.91	527.62
1株当たり配当額 (円)	47.00	60.00	65.00	30.00	30.00
(うち1株当たり 中間配当額) (円)	(20.00)	(25.00)	(30.00)	(20.00)	(15.00)
1株当たり当期純利益 (円)	94.24	143.71	58.44	39.28	74.58
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	42.7	47.1	55.5	55.3	63.4
自己資本利益率 (%)	26.4	33.1	12.2	8.3	14.9
株価収益率 (倍)	12.3	12.7	21.8	21.6	12.8
配当性向 (%)	49.9	41.7	111.2	76.3	40.2
従業員数 (人)	148	148	151	148	151

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 3 自己資本比率及び自己資本利益率を算定する際の純資産額は、前者については期末金額で、後者については期中平均の金額で算定しております。

## 2 【沿革】

- 昭和44年6月 東京都世田谷区に、株式会社国際機械振動研究所の関東地区代理店として、国際計測器株式会社を設立、バランスンマシン、振動計測器及び巻線試験機の販売を開始
- 昭和49年11月 製造元である株式会社国際機械振動研究所の会社更生法適用申請により、その製造子会社である日本ビブロン株式会社〔昭和60年11月をもって吸収合併〕を買収し、自らバランスンマシン及び巻線試験機の製造に着手
- 昭和50年2月 名古屋営業所を名古屋市に開設
- 昭和50年5月 大阪営業所を大阪市に開設
- 昭和50年6月 東京都調布市に工場を新設、「KOKUSAI」ブランドのバランスンマシン及び巻線試験機の製造を本格的に開始
- 昭和53年8月 本社を東京都世田谷区から東京都調布市に移転
- 昭和58年6月 韓国営業所をソウル市に開設
- 昭和59年6月 米国駐在員事務所をデトロイト市に開設
- 昭和60年6月 東京都多摩市の現本社工場所在地に工場を新設移転
- 昭和60年11月 本社を東京都調布市から現本社所在地に移転
- 昭和60年11月 子会社日本ビブロン株式会社を吸収合併
- 昭和61年12月 本社隣接地に本社社屋新設
- 昭和62年11月 米国駐在員事務所を閉鎖し、現地法人KOKUSAI INC.〔現連結子会社〕を米国インディアナポリス市に設立
- 平成2年6月 台湾営業所を台中市に開設
- 平成3年6月 韓国営業所を閉鎖し、韓国ソウル支店をソウル市に開設
- 平成5年12月 韓国ソウル支店を現地法人国際計測器株式会社〔平成16年3月をもって清算〕として安養市に設立
- 平成5年12月 現地法人中国合資上海松雲国際計測器有限公司〔平成20年11月をもって清算〕を中国上海市に設立
- 平成6年6月 長春事務所を中国吉林省長春市に開設
- 平成7年9月 上海事務所〔平成14年10月をもって閉鎖〕を中国上海市に開設
- 平成10年10月 九州営業所を北九州市に開設
- 平成10年12月 現地法人中国合資孝感松林国際計測器有限公司(中国湖北省孝感市)〔現関連会社〕に出資
- 平成11年6月 KOREA KOKUSAI CO., LTD.〔現連結子会社〕を大邱広域市に設立
- 平成12年1月 事業拡大に伴い本社隣接地の工場を買取り、第二工場として製造を開始
- 平成12年7月 深セン事務所を中国広東省深セン市に開設
- 平成13年2月 日本証券業協会に株式を店頭登録
- 平成13年11月 KOREA KOKUSAI CO., LTD.の現地生産体制を確立するため、韓国大邱広域市に工場を新築
- 平成14年5月 KOKUSAI Europe GmbH.〔現連結子会社〕をドイツミュンヘン市に設立
- 平成14年10月 高技国際計測器(上海)有限公司〔現連結子会社〕を中国上海市に設立
- 平成16年12月 株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場
- 平成18年2月 Thai Kokusai CO., LTD.〔現連結子会社〕をタイバンコク市に設立
- 平成19年3月 事業拡大に伴い本社隣接地の工場を買取り、第三工場として製造を開始
- 平成19年9月 東伸工業株式会社〔現連結子会社〕及び東伸高圧技研株式会社〔平成21年8月をもって清算〕を子会社化
- 平成21年12月 松林国際試験機(武漢)有限公司〔平成26年4月をもって清算〕を中国武漢市に設立
- 平成22年4月 ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に株式を上場
- 平成22年10月 大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場
- 平成25年4月 本社工場及び本社第二工場がISO9001の認証を取得
- 平成25年4月 本社第三工場を改築
- 平成25年5月 東伸工業株式会社を東京都品川区から東京都多摩市に移転
- 平成25年7月 大阪証券取引所と東京証券取引所の市場統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場
- 平成25年12月 本社第三工場がISO9001の認証を取得

### 3 【事業の内容】

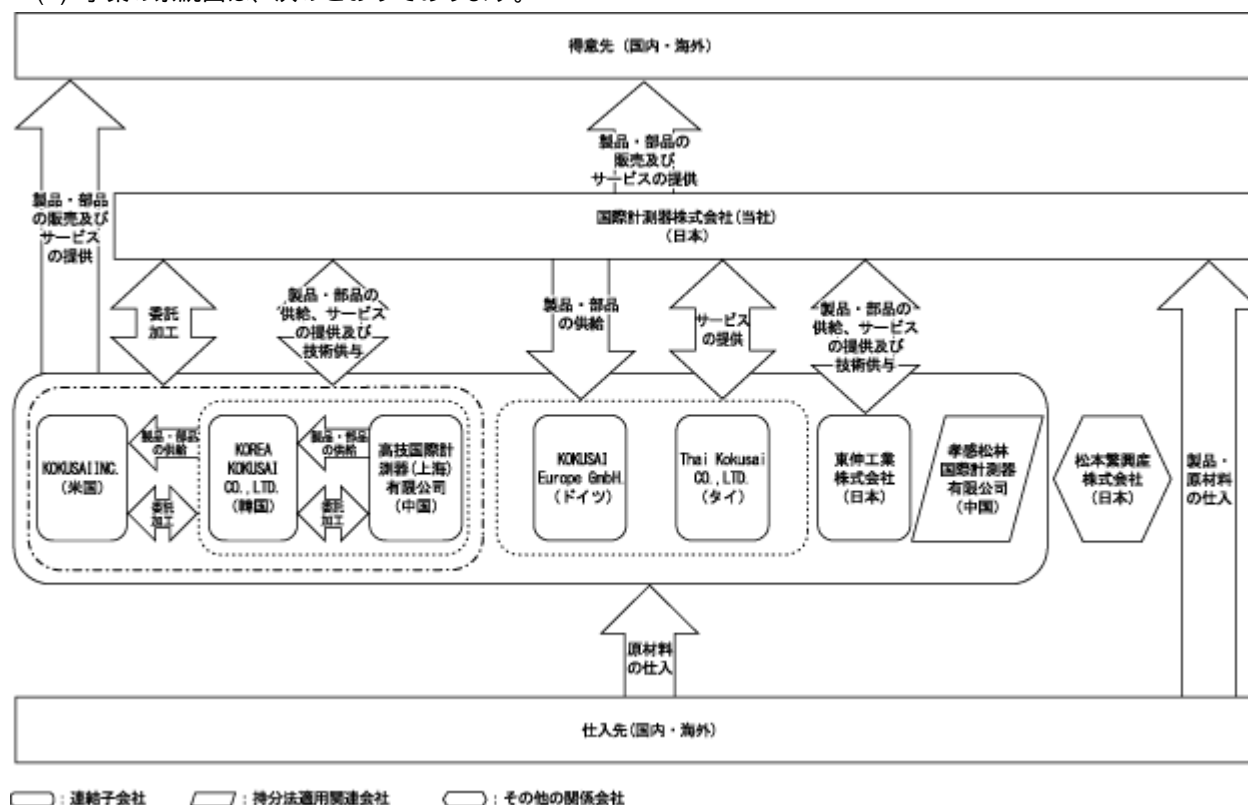
当社グループ（当社及び関係会社）は、当社、子会社6社、関連会社1社及びその他の関係会社1社で構成されており、バラシングマシン、電気サーボモータ式振動試験機、材料試験機、シャフト歪自動矯正機、その他計測機器（巻線試験機、歯車かみ合い試験機及び地震計等）の製造販売及びサービスを主な事業としております。

(1) グループ会社別の事業内容は次のとおりであります。

区分	会社名	所在地 (注)	主な事業
当社	国際計測器株式会社	日本	バラシングマシン、電気サーボモータ式振動試験機、シャフト歪自動矯正機、その他計測機器の製造販売及びサービス
連結 子 会 社	KOKUSAI INC.	米国	バラシングマシン、シャフト歪自動矯正機の製造販売及びサービス、電気サーボモータ式振動試験機の販売及びサービス
	KOREA KOKUSAI CO.,LTD.	韓国	バラシングマシン、電気サーボモータ式振動試験機、シャフト歪自動矯正機の製造販売及びサービス
	高技国際計測器(上海)有限公司	中国	バラシングマシン、シャフト歪自動矯正機、巻線試験機の製造販売及びサービス
	KOKUSAI Europe GmbH.	ドイツ	バラシングマシン、電気サーボモータ式振動試験機の販売及びサービス
	Thai Kokusai CO.,LTD.	タイ	バラシングマシン、電気サーボモータ式振動試験機の販売及びサービス
	東伸工業株式会社	日本	材料試験機の製造販売及びサービス
関連会社	孝感松林国際計測器有限公司	中国	バラシングマシンの製造販売及びサービス
その他の 関係会社	松本繁興産株式会社	日本	有価証券の保有並びに運用

(注) セグメントとの関連については、KOKUSAI Europe GmbH.及びThai Kokusai CO.,LTD.はセグメントの「その他」、当社及びその他の連結子会社は所在地と報告セグメントが同一であります。なお、関連会社の孝感松林国際計測器有限公司及びその他の関係会社の松本繁興産株式会社はセグメントには含まれておりません。

(2) 事業の系統図は、次のとおりであります。



(3) 主な製品の内容及び主な用途については次のとおりであります。

バラシングマシン（バルンサーまたは動釣合試験機）

<バラシングマシン及びバランス自動修正装置>

バラシングマシンには、スタティック型（重量のバラツキを測定）とダイナミック型（遠心力のバラツキを測定）の2方式があり、当社グループの製造・販売するバラシングマシンのほぼ全てがダイナミック型のバラシングマシンであります。

モーターの回転子やエンジンあるいはタイヤのように高速で回転する物体は、わずかな重量のアンバランスがあっても、振動や騒音の原因となるだけではなく製品の寿命にも影響するため、品質管理上からもバランスの測定及び修正作業は生産工程上必要なものとなっております。しかも、その要求精度はますます厳しくなっており、省エネ・低騒音とあわせて高性能化の方向へ向かっております。

バラシングマシンには、大別するとバランス測定を目的としたバルンサー（汎用型やタイヤバルンサー等）と、アンバランスの個所をカッターやドリル等で削ったり、パテや金属片等をプラスしたりして自動で修正を行うバランス自動修正装置（自動バルンサー）の2種類があり、当社グループはこの両方を製造・販売しております。

バラシングマシンの用途は、高速で回転する全ての部品が対象となりますが、主な対象部品は次のとおりであります。

自動車部品

- ・電装用モーター類（オルタネーター、スターター、ワイパー、ABS、エアコン、ウインドウ、フューエルポンプ等数十種類）
- ・エンジン系（クランクシャフト、フライホイール、プーリー、ターボチャージャー等）
- ・変速・駆動系（クラッチ、トルコン部品各種、プロペラシャフト等）
- ・足回り系（ブレーキディスク、ブレーキドラム、ホイール、タイヤ等）

家電関係 掃除機、換気扇、ミキサー、エアコン、ハードディスク、オーディオ等の各種モーター

OA関係 ハードディスク、レーザープリンター（ポリゴンミラー）、冷却用小型ファン等

その他 各種産業機械、農機・建機、ターボファン、タービン、工作機械主軸類、その他高速で回転する全ての部品

<ユニフォーミティ/バランス複合試験機>

完成タイヤの主要試験項目には、バランス試験とユニフォーミティ試験（タイヤに所定の面圧をかけながら回転させ、タイヤの反発力のバラツキを計測する）の2項目があります。当社は、この2つの試験を1台の試験機で同時に計測できる複合機を開発し販売しております。さらに、時速120Km以上の実走状態で計測する高速型のインライン複合試験機（当社製品名H-UBマシン）の開発にも成功し、国内のみならず海外においても多くの販売実績を有しております。

電気サーボモータ式振動試験機

自動車産業における素材・部品の材料試験から完成車の走行/振動試験まで、広範囲にわたる試験を全て高精度の電気サーボモータを採用し、自社開発の制御システム(特許取得済)で製品化した試験装置であります。従来の油圧式制御とは異なる世界初の試験機であり、提出日現在の製品ラインナップは30数種類に及んでおります。

材料試験機

機械などに使用される部品はある一定の負荷がかかる状態で使用されるものがあります。本試験機は、部品（材料）の使用状況下での耐久性を試験する装置です。一般に材料試験と呼ばれる試験は、多岐にわたりますが、当社グループにおいて主に取り扱う試験機は引っ張り試験、圧縮試験、ねじり試験などであり、また、高温状態などの特殊条件下で使用される部品について、一定の温度や圧力を保持した状態で部品（材料）の耐久性を測定するクリープ試験機なども材料試験機に含まれております。

#### シャフト歪自動矯正機

シャフトは、加工或いは熱処理工程において歪み（曲がり）が発生します。従来よりシャフトの歪矯正作業は熟練工の仕事とされておりましたが、この矯正作業を自動化したものがシャフト歪自動矯正機であり、主に自動車部品、OA部品等の矯正に利用されております。

#### その他の主な製品

##### <巻線試験機>

モーターやトランス等の巻線部品（コイル）に、使用電圧の十数倍のサージ電圧をかけてそのコイルの良否を判定する試験機であります。

##### <歯車かみ合い試験機>

トランスミッション等に使用される歯車の歯面のキズ、偏芯、大きさ（OBD）等を、生産ライン上で全数検査を対象として検査する自動試験機であります。全ての精密歯車が対象となりますが、主に自動車用トランスミッション工場で使用されております。

##### <地震計>

地震国であるわが国では、地震による災害防止のために地震防災システムの構築が必要とされておりました。当社においては、振動計測技術を活かした地震計の製造販売を行っております。阪神・淡路大震災を契機に平成8年に構築された震度情報ネットワークシステムにおいて、当社の地震計が多くの全国各都道府県及び市区町村に採用されました。なお、平成22年度にはこの震度情報ネットワークシステムの全国的な更新があり、当社は地震計測装置メーカーとして最多の設置実績を有しております。

4 【関係会社の状況】

平成30年3月31日現在

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
(連結子会社) KOKUSAI INC. (注1)	アメリカ インディアナ ポリス	1,020千米ドル	バラシングマシン、シャフト歪自動矯正機の製造販売及びサービス、電気サーボモータ式振動試験機の販売及びサービス	100.00	役員の兼任1人 当社製品の販売及びサービス 技術供与 製品及び部品仕入
KOREA KOKUSAI CO.,LTD. (注1)	韓国 大邱広域市	1,700百万ウォン	バラシングマシン、電気サーボモータ式振動試験機、シャフト歪自動矯正機の製造販売及びサービス	100.00	役員の兼任3人 当社製品の販売及びサービス 技術供与 製品仕入 当社部品の委託加工
高技国際計測器(上海)有限公司 (注1)	中国 上海市	8,277千円	バラシングマシン、シャフト歪自動矯正機、巻線試験機の製造販売及びサービス	100.00	役員の兼任2人 当社製品の販売及びサービス 技術供与 製品仕入 当社部品の委託加工
KOKUSAI Europe GmbH.	ドイツ フランクフルト	25,000ユーロ	バラシングマシン、電気サーボモータ式振動試験機の販売及びサービス	100.00	役員の兼任1人 当社製品の販売及びサービス
Thai Kokusai CO.,LTD. (注2)	タイ バンコク	4,000千バーツ	バラシングマシン、電気サーボモータ式振動試験機の販売及びサービス	49.00	役員の兼任2人 当社製品の販売及びサービス
東伸工業株式会社	東京都多摩市	54,000千円	材料試験機の製造販売及びサービス	100.00	役員の兼任4人 当社製品の販売 資金援助
(持分法適用関連会社) 孝感松林国際計測器有限公司	中国 湖北省孝感市	4,276千円	バラシングマシンの製造販売及びサービス	25.17	役員の兼任1人 技術供与 部品仕入
(その他の関係会社) 松本繁興産株式会社	東京都武蔵野市	10,000千円	有価証券の保有並びに運用	(21.12)	役員の兼任2人

(注1) 特定子会社に該当しております。

(注2) 実質支配力基準により連結子会社としております。

(注3) セグメントとの関連については、「第1 企業の概況 3 事業の内容」に記載のとおりであります。



## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

名称	従業員数(人)	セグメントとの関連
国際計測器株式会社	151	日本(国際計測器株式会社)
KOKUSAI INC.	30	米国
KOREA KOKUSAI CO.,LTD.	36	韓国
高技国際計測器(上海)有限公司	66	中国
KOKUSAI Europe GmbH.	1	その他
Thai Kokusai CO.,LTD.	10	その他
東伸工業株式会社	26	日本(東伸工業株式会社)
合計	320	-

(注) 従業員数は就業人員であります。

### (2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)	セグメントとの関連
151	46.7	16.2	6,432	日本(国際計測器株式会社)

(注1) 従業員数は就業人員であります。

(注2) 平均年間給与には、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係については円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営方針

当社グループは、「常に顧客の要請に応えて、その時代に即した新しい価値の創造に努める」を基本理念としており、国内だけでなくグローバルな市場において「利益を伴う成長」を達成し、継続的に企業価値を高めていくことを目指しております。当社グループは、振動計測技術をベーステクノロジーとした製品を製造しております。

主な製品として、自動車・家電製品・デジタル機器などに搭載されている回転機器（モーター、ハードディスク、タイヤなど）を対象とし、回転した状態でのつり合いを測定するバランシングマシン、主に自動車に搭載される電子部品の振動によって受ける影響を試験する試験機や、試験対象物にかかる様々な負荷を再現し、耐久性を試験する電気サーボモータ式振動試験機を製造販売することにより、顧客の品質向上を通じて社会に貢献することを目標として研究開発を行っております。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、売上高、売上高経常利益率、自己資本利益率の向上を目標とした経営活動を実施してまいります。なお、具体的数値に関しましては「(3) 中長期的な会社の経営戦略」に記載しております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、投資効率の高い経営を図るため、売上高、売上高経常利益率、自己資本利益率の向上を目標とするバランスのとれた経営計画を策定し実施しておりますが、景気動向や主力ユーザーの業界動向等を考慮し、計画を作成しております。

計画を達成するために、以下の5項目を主な経営戦略として掲げ、中期3ヶ年経営計画の実現に向けて諸施策を講じて行く所存であります。

人材・技術への投資による積極的な研究開発活動の実施

海外市場への積極的な進出による世界シェアの拡大

日本・米国・韓国・中国の各連結子会社工場における生産体制の確立（コストダウン戦略）

戦略製品としてのタイヤユニフォーミティ/バランス複合試験機（UBマシン）の世界的な拡販体制の確立

今後の新製品の柱となる各種の電気サーボモータ式振動試験機の研究開発及び拡販体制の確立

また、長期的には日本・アジアはもちろんのこと、米国・欧州においてもKOKUSAIブランドがバランシングマシンを中心とした計測・試験機器専門メーカーとして認知されるべく万全の体制を整えて行く所存であります。

今後とも「技術開発型企業」として、市場ニーズをいち早くキャッチできる営業体制の強化と、最先端技術の製品開発を可能とする技術スタッフの育成に努めてまいります。

#### (4) 会社の対処すべき課題

当社グループの主力ユーザーである自動車部品・タイヤメーカー及び電子・家電メーカーのアジア圏を中心とした地域への海外生産移管が、今後も継続することが予想され、さらに現地ユーザーからの受注も増加傾向にあります。これにより海外のライバルメーカーや現地競合メーカーとの価格競争が激化し、当社グループの主力製品であるバランシングマシンを中心とした試験計測機も、その影響を受けております。

このような状況のもと、当社グループは以下の課題につき対処していく所存であります。

##### 生産体制

本社第三工場の研究開発用各種振動試験機等の本格稼働を始め、各連結子会社の現地生産体制も整っており、今後もグループ全体としてコストダウンの相乗効果を上げるために、各社の生産管理部門及びエンジニアリング部門をさらに強化してまいります。

##### 財務戦略

当社グループの海外売上高は、当連結会計年度において69.4%と高い比率になっております。このため、為替予約等の施策を行うことにより、為替相場の変動による業績への影響を極力抑えるよう努力いたします。

## 研究開発

当社グループは、これまでユーザーのニーズを的確に把握し、特に現場担当者の方々の声を反映させて新製品の開発を行ってまいりました。

既存事業の主力製品であるタイヤ関連試験機につきましては、生産ライン用タイヤバランサー及びユニフォーミティマシンの設計変更等によるコストダウン・精度向上を目指した研究開発を今後も継続して行ってまいります。

また、当連結会計年度に製品化した普通乗用車及びトラック・バス用「タイヤ摩耗試験機」を始めとした、タイヤの耐久性・グリップ力・転がり抵抗等、タイヤの基本性能・精度向上を目指した研究開発用各種試験機の研究開発を推進してまいります。

近年、自動車の自動運転化への流れが急速に進む中で、EVモーターや車載用の各種コンピューターユニット等、自動運転を実現するための各製品に対して、今まで以上に高い信頼性（性能・耐久・安全）が求められる試験機需要が高まっております。

当社グループが今後の主力製品の柱として位置付けて研究開発を推進し、製品化に成功した「電気サーボモータ式振動試験機」及び「動電型3軸同時振動試験機」は、ユーザーから要求されている性能試験に対応する製品シリーズとして高い評価をいただいております。

この試験機は、競合他社が製造している従来の油圧試験システムと比較して「環境・メンテナンス・省エネ等」の面で特に優れた性能を有しており、これまで多くの納入実績を積み重ねております。

今後さらに性能・精度・機能面の向上を目指して、新たな試験機需要に対応した研究開発活動を推進してまいります。

## 人材育成

今後予想される同業他社との競合により製品の価格低下圧力や生産増加・品質向上に対応するため、また、海外連結子会社における生産能力や品質の向上、現地ユーザーに対するメンテナンス等の対応能力をより一層高めるため、エンジニアの育成を重要な課題と位置付けております。

具体的な施策としては、従来より当社グループの現地スタッフに対する本社での技術研修、各連結子会社への積極的な技術指導を行っておりますが、今後も継続してグループ全体として人材育成に取り組んでまいります。

## 2 【事業等のリスク】

当社グループの事業活動に関するリスクについて、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

### (1) 国内外の経済情勢及び社会情勢の影響について

当社グループは日本国内のみならず、海外では主に米国、韓国、中国、東南アジアで事業展開をしており、今後の地域戦略の中心を担うASEAN諸国その他の新興市場国等の経済情勢及び社会情勢が変化した場合、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

また、海外市場における事業展開には、法制や税制の変更、政治・経済情勢の変化、インフラの未整備、人材確保の困難性、テロ等の非常事態、伝染病の流行等といったリスクが内在しており、当該リスクが顕在化した場合には、当社グループの事業に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 事業内容について

当社グループは、モーターの回転子や、エンジンあるいはタイヤのように高速で回転する回転体のバランスを計測し、修正まで行うダイナミックバランシングマシンの製造を主たる事業としております。特にタイヤ業界において、安全性、品質向上へのニーズの高まりとともに主要試験項目であるバランス及びユニフォーミティ（均一性）試験の精度向上が要求されてまいりました。

当社グループは、この2つの試験を同時に行うことができる複合機（UBマシン）を開発し、タイヤ関連試験機の中で戦略製品として位置付け、積極的に拡販してまいりました。なお、全製品におけるタイヤ関連試験機の受注残高に占める割合は、当連結会計年度末で45.1%と非常に高い割合であります。このように、タイヤ関連試験機に対する依存度は依然として高い状況にあり、今後の当社グループの経営成績はタイヤ業界・自動車業界等の設備投資動向に影響を受ける可能性があります。

タイヤ関連試験機の連結売上高に占める割合	
平成29年3月期	平成30年3月期
46.1%	47.2%

## (3) 海外売上高について

当社グループの連結売上高に占める海外売上高は、家電用モーターなどの中国あるいは東南アジアへの生産移管、世界的な市場を視野に入れた自動車・タイヤ業界の海外への進出、さらに中国の自動車産業の躍進に見られる現地ユーザーの台頭により海外への売上高比率は今後も高い水準で推移すると予想されます。

したがって、今後の当社グループ経営成績は、主要な海外売上先である中国をはじめとするアジアの経済情勢、市場動向により影響を受ける可能性があります。

連結売上高に占める海外売上高	
平成29年3月期	平成30年3月期
71.5%	69.4%

## (4) 為替相場の変動による影響について

当社グループの連結売上高に占める海外売上高の割合は上記の「(3) 海外売上高について」に記載のとおりであります。当社の売上高における米ドル建て売上は、依然大きな割合になっており、為替相場の変動の影響を受けやすい状況であります。

今後とも、為替相場の変動によるリスクへの対策を講じてまいります。影響をすべて排除することは難しく、当社グループの経営成績に少なからず影響を与える可能性があります。

	平成29年3月期	平成30年3月期
米ドル建て売上高	23,298千ドル (25億円)	23,046千ドル (25億6千7百万円)
為替差損益	6千万円 (為替差損)	1億5百万円 (為替差損)

## (5) 法規制等による影響について

当社グループは日本国内のみならず、海外では主に米国、韓国、中国、東南アジアで事業展開しており、各国において様々な法的規制を受けております。

当社グループは、これらの法的規制等の遵守に努めておりますが、当該法的規制が改正された場合や、何らかの理由により当社グループがこれらの法的規制等を遵守出来ない場合には、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

## (6) 製造物責任

当社グループは、品質管理基準に従って各種製品を製造しておりますが、欠陥や品質不良により、クレーム等が発生する場合には、当社グループに対する顧客の信頼が低下し、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

なお、当社グループは、製品製造物保険に加入しておりますが、同保険が賠償額を十分にカバーできるという保証はなく、製造物責任による多額の損害賠償が発生した場合には、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

## (7) 知的財産の保護または侵害に伴うリスクについて

当社グループは、自社が保有する技術等については特許権等の取得による保護を図るほか、他社の知的財産権に対する侵害の無いよう弁理士の協力を得ながらリスク管理に取り組んでおります。

しかしながら、当社グループが現在販売している製品、あるいは今後販売する製品が第三者の知的財産権に抵触する可能性を的確に判断できない可能性があり、また、当社グループが認識していない特許権が成立することにより、当該第三者より損害賠償等の訴えを起こされる可能性があります。そのような場合、当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

## (8) 地震等の災害

当社グループは国内外に生産拠点があり、大地震、台風等の自然災害や事故、火災等により、生産の停止、設備の損壊や電力供給不足等の不測の事態が発生した場合には、当社グループの事業活動に支障が生じる可能性があります。当社グループの事業等に影響を及ぼす可能性があります。

## (9) 経営人材リスク

当社グループの企業経営陣は、各担当業務分野において、重要な役割を果たしております。これら役員が業務執行できなくなった場合、並びにそのような重要な役割を担い得る人材を育成、確保できなかった場合、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社）の財政状態、経営成績、キャッシュ・フローの状況と生産、受注及び販売の実績（以下、「経営成績等」という。）の概要は次のとおりであります。

##### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における当社グループを取り巻く経営環境は、企業業績の改善、設備投資や所得・雇用環境の改善が続き緩やかな回復基調にありますが、地政学リスクの高まり等により、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループが主力取引先としている中国及び東南アジアの自動車及びタイヤ業界の設備投資につきましては、当連結会計年度において、増加傾向で推移しております。また、国内自動車関連メーカーの設備投資につきましては、依然として低燃費エンジンや燃料電池・電気自動車等、環境や省エネに配慮した自動車部品の製造・研究開発分野への設備投資が集中しております。

このような状況のもと、当社グループは、生産ライン用の試験装置であるバラシングマシンと共に、研究開発用の各種電気サーボモータ式振動試験機の営業活動を、国内はもとより韓国・中国をはじめとするアジアを中心に積極的に展開いたしました。当連結会計年度につきましては、中国をはじめとするアジアのタイヤメーカーからの生産ライン用タイヤ関連試験機や国内の自動車部品メーカーからの電気サーボモータ式振動試験機を中心に受注を獲得いたしました。

この結果、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は次のとおりであります。

##### a．財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億5千9百万円減少し、161億8千8百万円となりました。

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ9億3千1百万円減少し、56億7千8百万円となりました。

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ6億7千1百万円増加し、105億1千万円となりました。

##### b．経営成績

当連結会計年度の経営成績は、売上高114億8千1百万円（前連結会計年度比3.5%増）、営業利益15億9百万円（前連結会計年度比57.2%増）、経常利益14億円（前連結会計年度比46.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益8億6千7百万円（前連結会計年度比58.3%増）となりました。

なお、セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

##### 〔日本（国際計測器株式会社）〕

アジア向けの電気サーボモータ式振動試験機の出荷・検収が減少したものの、アジア・中国向けのバラシングマシン及び国内・中国向けのタイヤ関連試験機の出荷・検収が増加したことにより、全体として出荷・検収は増加いたしました。また、増収により、売上総利益が増加したことや、子会社からの受取配当金が増加したことにより増益となりました。

この結果、売上高86億3千9百万円（前連結会計年度比3.6%増）、経常利益14億9千1百万円（前連結会計年度比72.9%増）となりました。

##### 〔日本（東伸工業株式会社）〕

原子力業界からのクリープ試験装置や腐食環境・強度試験装置などの受注が増加し、材料試験機の出荷・検収が増加いたしました。

この結果、売上高6億5千3百万円（前連結会計年度比60.7%増）、経常損失3千万円（前連結会計年度は1億3千8百万円の損失）となりました。

〔米国〕

主力製品であるバランスングマシンは、日系の大手自動車メーカーやタイヤメーカー、米国の自動車部品メーカーへの出荷・検収が減少いたしました。

この結果、売上高10億8千9百万円（前連結会計年度比9.1%減）、経常損失2千1百万円（前連結会計年度は3千4百万円の損失）となりました。

〔韓国〕

韓国の大手自動車メーカーへの電気サーボモータ式振動試験機の出荷・検収が大幅に減少いたしました。

この結果、売上高17億4千5百万円（前連結会計年度比17.2%減）、経常利益2億1千8百万円（前連結会計年度比44.2%減）となりました。

〔中国〕

中国国内のタイヤメーカーへのタイヤ関連試験機の出荷・検収は減少したものの、モーター関連メーカーへのバランスングマシンやシャフト歪自動矯正機などの出荷・検収は増加いたしました。

この結果、売上高6億7千万円（前連結会計年度比17.4%増）、経常損失4百万円（前連結会計年度は3百万円の利益）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローについては、営業活動により6億3千8百万円増加し、投資活動により2千8百万円減少し、財務活動により8億3千万円減少した結果、現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比べ2億8千8百万円減少し、21億5千9百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

a．営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、6億3千8百万円の収入（前連結会計年度比5千2百万円の収入減少）となりました。これは、法人税等の支払額が5億5千3百万円あったことや、期末に売上が集中したことにより売上債権が5億4千9百万円増加したこと及び売上に伴い前受金が2億1千7百万円減少したものの、税金等調整前当期純利益を14億円計上したことや、たな卸資産が5億2千9百万円減少したことなどによるものであります。

b．投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、2千8百万円の支出（前連結会計年度比3億3千8百万円の支出減少）となりました。これは定期預金の満期が到来したことにより定期預金の払戻による収入が12億1百万円あったものの、資金運用のために定期預金の預入による支出が12億5千3百万円あったことなどによるものであります。

c．財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、8億3千万円の支出（前連結会計年度比1億1千1百万円の支出減少）となりました。これは、長期借入金の返済による3億7千8百万円の支出や、配当金を3億5千万円支払ったことなどによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

区 分	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)			
	生産高(千円)	構成比(%)	前年同期比(%)	セグメントとの関連
バランスングマシン	7,367,495	64.1	+ 10.6	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
電気サーボモータ式振動試験機	1,684,069	14.7	24.4	日本(国際), 韓国
材料試験機	653,227	5.7	+ 60.7	日本(東伸)
シャフト歪自動矯正機	628,470	5.5	17.6	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
その他	1,157,495	10.1	+ 12.3	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
合 計	11,490,756	100.0	+ 3.6	-

(注1) 金額は、販売価格によっております。

(注2) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(注3) 日本(国際)、日本(東伸)は、それぞれ報告セグメントの日本(国際計測器株式会社)、日本(東伸工業株式会社)であります。

b. 受注実績

区 分	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)			
	受注高(千円)	構成比(%)	前年同期比(%)	セグメントとの関連
バランスングマシン	6,351,101	57.0	9.9	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
電気サーボモータ式振動試験機	2,221,945	19.9	+ 19.4	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
材料試験機	547,200	4.9	+ 24.7	日本(東伸)
シャフト歪自動矯正機	806,291	7.2	2.2	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
その他	1,224,653	11.0	+ 23.4	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
合 計	11,151,193	100.0	0.1	-

(注1) 金額は、受注価格によっております。

(注2) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(注3) 日本(国際)、日本(東伸)は、それぞれ報告セグメントの日本(国際計測器株式会社)、日本(東伸工業株式会社)であります。

c. 受注残高

区 分	当連結会計年度末 (平成30年3月31日)			
	受注残高(千円)	構成比(%)	前年同期比(%)	セグメントとの関連
バランスングマシン	4,125,758	64.2	21.2	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
電気サーボモータ式振動試験機	1,409,081	21.9	+ 39.3	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
材料試験機	62,460	1.0	63.1	日本(東伸)
シャフト歪自動矯正機	743,702	11.6	+ 29.7	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
その他	89,342	1.4	+ 243.5	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
合 計	6,430,346	100.0	8.3	-

(注1) 金額は、受注価格によっております。

(注2) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(注3) 日本(国際)、日本(東伸)は、それぞれ報告セグメントの日本(国際計測器株式会社)、日本(東伸工業株式会社)であります。

d. 販売実績

区 分	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)			
	売上高(千円)	構成比(%)	前年同期比(%)	セグメントとの関連
バランスングマシン	7,354,519	64.1	+ 10.4	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
電気サーボモータ式振動試験機	1,684,069	14.7	24.4	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
材料試験機	653,227	5.7	+ 60.7	日本(東伸)
シャフト歪自動矯正機	628,470	5.5	17.6	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
その他	1,161,320	10.1	+ 12.7	日本(国際), 米国, 韓国, 中国
合 計	11,481,607	100.0	+ 3.5	-

- (注1) 金額は、販売価格によっております。  
 (注2) 主要な相手先別の販売実績等については、当該割合が10%以下のため記載を省略しております。  
 (注3) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 (注4) 日本(国際)、日本(東伸)は、それぞれ報告セグメントの日本(国際計測器株式会社)、日本(東伸工業株式会社)であります。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されています。この連結財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項につきましては、合理的な基準に基づき会計上の見積りを行っております。

詳細につきましては、「第5 経理の状況 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」をご参照下さい。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 財政状態の分析

(資産の部)

当社グループの当連結会計年度末の資産合計は、161億8千8百万円(前連結会計年度末比2億5千9百万円減)となりました。これは、期末にタイヤ関連試験機等の売上が集中したことにより受取手形及び売掛金が増加(前連結会計年度末比5億4千5百万円増)したものの、期末に出荷が集中したことにより仕掛品が減少(前連結会計年度末比3億7千8百万円減)したことや、法人税等の納付、配当の実施などにより現金及び預金が増加(前連結会計年度末比2億4千1百万円減)したこと及び退任した役員に対する保険積立金を取り崩したことにより保険積立金が減少(前連結会計年度末比1億2千4百万円減)したことが主たる要因であります。

(負債の部)

当社グループの当連結会計年度末の負債合計は、56億7千8百万円(前連結会計年度末比9億3千1百万円減)となりました。これは、売上の計上により前受金が減少(前連結会計年度末比2億1千6百万円減)したことや、借入金の返済により短期借入金が増加(前連結会計年度末比2億円減)したこと及び約定返済により1年内返済予定の長期借入金が増加(前連結会計年度末比1億1千2百万円減)したことが主たる要因であります。

(純資産の部)

当社グループの当連結会計年度末の純資産合計は、105億1千万円(前連結会計年度末比6億7千1百万円増)となりました。これは、親会社株主に帰属する当期純利益を計上したことにより利益剰余金が増加(前連結会計年度末比5億1千7百万円増)したことや、保有する株式の時価上昇に伴いその他有価証券評価差額金が増加(前連結会計年度末比1億5千5百万円増)したことが主たる要因であります。



b. 経営成績の分析

(売上高)

当社グループの当連結会計年度の売上高は東南アジア向けタイヤ関連試験機の出荷・検収が減少しましたが、中国向けのタイヤ関連試験機等のバラシングマシンの出荷・検収が増加した結果、114億8千1百万円（前連結会計年度比3.5%増）となりました。所在地別の分析については、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

(営業利益)

営業利益は売上原価率が0.8ポイント改善したことや、役員報酬や給料手当及び賞与の減少により15億9百万円（前連結会計年度比57.2%増）となりました。

(経常利益)

経常利益は上記の影響により改善しましたが、為替差損の発生により14億円（前連結会計年度比46.4%増）となりました。

c. キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析については、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、商品の仕入れのほか、製造費、販売費及び一般管理費の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、定期預金の運用や設備投資、退職金の原資とするための保険積立金の運用等によるものであります。

当社グループは、事業運営上必要な資金の流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

短期運転資金需要については自己資金及び金融機関からの借入を基本としており、設備投資や長期運転資金の調達につきましては、金融機関からの長期借入を基本としております。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因は、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」にも記載のとおり、ここ数年来継続している海外への売上高比率の高水準を背景とした主要海外売上先である中国をはじめとするアジアの経済情勢、市場動向並びに為替相場の変動が挙げられます。

経済情勢に関しましては、米国については個人消費の回復や自動車関連メーカー等の設備投資の緩やかな回復が予測されます。中国については潜在的な市場は大きいものの、成長の鈍化が予測されます。インドについては引き続き内需が堅調に推移すると見込まれることから市場の拡大が続くと予測されます。韓国、台湾、ASEAN地域については、世界経済の緩やかな回復が続くと見込まれることから、これらの地域も回復傾向が続くものと予測しております。

市場動向に関しましては、当社の主要ユーザーである国内の自動車関連業界は、今後も国内の生産設備予算については縮小傾向が続くことが懸念されるものの、環境対応車に対する需要は高いことから、環境対応車に搭載される低燃費エンジン・燃料電池など環境や品質に関連する研究開発予算や海外拠点に対する設備投資需要は、今後も継続されるものと予測されます。

為替変動に関しましては、特に外貨建取引における主要通貨である米ドルのレートについては、当連結会計年度の第1四半期から第3四半期までは円安ドル高基調を推移し円安メリットを享受いたしましたが、第4四半期に急激に円高ドル安基調になったことにより、為替差損を計上しております。今後も為替予約等の対策により業績への影響を軽減すべく対応する所存であります。

#### (4) 戦略的現状と見通し

##### a. 製品別・地域別戦略

製品別戦略としましては、既存事業の主力製品である生産ライン用タイヤユニフォーミティ・バランス複合試験機（UBマシン）をはじめとするタイヤ関連試験機を中心として販売活動を行ってまいります。今後は既存製品の更なる競争力の向上を推進するとともに、製品ラインアップを充実させるべくタイヤ摩耗試験機等の研究開発部門への事業展開も積極的に行ってまいります。

各種の電気サーボモータ式振動試験機については、自動車部品・鉄道車両用品・包装貨物用品・家電事務機器関連等、試験対象製品及び業界が多岐に渡っており、商社・代理店による営業を中心として積極的に事業展開を行ってまいります。

また、動電型3軸同時振動試験機の更なる研究開発とシリーズ化、当連結会計年度に開発したタイヤ摩耗試験機の拡販に向けて積極的な事業展開を行ってまいります。

さらに、現在業務提携をしているエミック株式会社との動電型振動試験機事業を推進することにより当社の振動試験機シリーズが充実し、ユーザーのニーズに的確に対応することが可能となりビジネスチャンスが広がるものと期待しております。

今後の地域別戦略は、次のとおりになっております。

中国では、従来より高技国際計測器(上海)有限公司（連結子会社）において、タイヤ関連試験機のみならず、各種電気サーボモータ式振動試験機等の販売を拡充するため、5か所の販売拠点（天津・長春・青島・武漢・深セン）を設けており、現地スタッフの教育と中国国内市場のニーズを把握し、迅速な対応を行っております。また、現地生産を増強するため工場増築を行い、稼働しております。

米国では、自動車・タイヤメーカーの設備投資予算の回復の兆しが見え始めており、日系自動車関連メーカー向けのよりきめ細かな営業を展開することや電気サーボモータ式振動試験機のデモ機を工場に設置し包装貨物用評価試験機の拡販営業を展開してまいります。

韓国では、自動車業界・タイヤ業界の海外工場向けの設備予算がウォン高の影響もあり縮小傾向にあります。このような傾向の中でも研究開発部門の予算は増加傾向にあり、設備計画情報を的確に収集し対応してまいります。

ヨーロッパでは、現地における市場調査や展示会への出展により、電気サーボモータ式振動試験機の自動車メーカー等に対する拡販体制を構築する予定であります。

国内では、当社を全製品の主力生産拠点であると共に、研究開発活動の主要拠点と位置付けております。今後の新規主力製品のひとつとして、シリーズ化を推進している各種の電気サーボモータ式振動試験機の生産増強及び研究開発拠点として本社第三工場が稼働しております。

また、東伸工業株式会社（連結子会社）においては、金属素材等の耐久・疲労・腐食等の試験を主力とする材料試験機全般を製造販売しておりますが、生産体制の効率化・コストダウンを図ると共に、当社との技術面・営業面・人材面における連携を強化し、収益性を高める努力をしてまいります。

このように当社グループは、中国を中心とするアジア市場での販売シェア拡大に注力すると共に、当社グループ全体への管理体制強化にも注力する所存であります。

##### b. 生産体制

当連結会計年度末の受注残高は、64億3千万円（前連結会計年度末比5億8千5百万円減）であり、約6.4ヶ月分の生産量を繰越すこととなりました。

当社グループは、上記にも記載のとおり、新製品の柱となる各種の電気サーボモータ式振動試験機及び既存製品の生産体制を整えております。米国、韓国、中国の各連結子会社での生産体制も整っており、今後もグループ全体としてコストダウンの相乗効果を上げるためにも、各社の生産管理部門及びエンジニアリング部門の強化を行い、グループ全体として生産能力及び品質向上に向けて強化を図ると共に生産効率を高め、既存製品はもとより開発新製品の収益性の向上を図る所存であります。

#### 4 【経営上の重要な契約等】

##### 業務提携契約

契約会社名	相手先	国名	契約品目	契約内容	契約期間
国際計測器株式会社	日特エンジニアリング株式会社	日本	巻線機・試験装置及び各種自動機	販売、生産及び共同開発	自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日 (自動更新)
国際計測器株式会社	株式会社電子制御国際	日本	巻線試験装置及び各種自動機	販売、生産及び共同開発	自 平成30年4月1日 至 平成32年3月31日 (自動更新)
国際計測器株式会社	エミック株式会社	日本	電気サーボモータ式振動試験機 動電型振動試験機	販売、生産及び共同開発	自 平成29年12月3日 至 平成30年12月2日 (自動更新)
国際計測器株式会社	Ryosho Europe GmbH	ドイツ	電気サーボモータ式振動試験機 動電型振動試験機	販売	自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日 (自動更新)

#### 5 【研究開発活動】

当社グループは、研究開発型企業として顧客のニーズに応えるべく、各機種において積極的に研究開発活動に取り組んでおります。当社グループの研究開発活動は、主要な拠点である本社の技術開発部門において行われる継続的な新製品・新技術の研究開発活動と、各技術部門において行われる顧客ニーズに即応した製品開発のための研究開発活動に大別されます。

また、技術部においてはユーザーからのニーズに応じた開発を行っているため、完成した製品が当該ユーザーへ販売されることがあり、開発製品がユーザーに販売された場合は、研究開発費としては計上されず、売上原価として計上しております。

当連結会計年度に支出した研究開発費の総額は、2千5百万円であり、主に報告セグメントの日本（国際計測器株式会社）で研究開発活動を行っております。

なお、これを製品分類別の研究開発活動で示すと次のとおりになります。

##### (1) バランシングマシン

当社グループの主力製品であるタイヤユニフォームティ・バランス複合試験機（UBマシン）について、精度向上、計測スピード向上、コスト低減を目標とした研究開発活動を行っております。

また、各自動車メーカーが取り組んでいるハイブリッド車や電気自動車搭載用モーター等のバランシングマシンについても研究開発を推進しております。

##### (2) 電気サーボモータ式振動試験機

新規事業の柱と位置付けている電気サーボモータ方式加振システムを応用した各種振動試験装置は、自動車部品の耐久・疲労試験や性能評価試験の用途だけでなく、より広い範囲に対応可能な製品とすべく研究開発活動を行っております。近年、自動車の自動運転化への流れが急速に進む中で、EVモーターや車載用の各種コンピューターユニット等、自動運転を実現するための各製品に対して、今まで以上に高い信頼性（性能・耐久・安全）が求められる試験機需要が高まっております。電気サーボモータ式振動試験機で培ったノウハウを応用し、タイヤの耐久性・グリップ力・転がり抵抗等、タイヤの基本性能・精度向上を目指した研究開発用各種試験機の研究開発を推進しております。

今後も精度向上や顧客ニーズに対応するための研究開発に努めるとともに、さらに他の試験分野へ応用するべく研究開発活動を推進してまいります。

##### (3) シャフト歪自動矯正機

シャフト歪自動矯正機につきましては、継続してトータルコスト低減・精度向上・顧客ニーズに対応するための、設計変更等の研究開発活動を行っております。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当社グループは、グループ全体での柔軟な生産体制を構築しております。

当連結会計年度の設備投資等の総額は3千7百万円であり、特記すべき主な設備投資はありません。

#### 2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	製品分類別	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社工場 (東京都多摩市)	日本 (国際計測器 株式会社)	バランスン グマシン シャフト歪自 動矯正機 その他	中小型機の 組立工場	235,535	1,611	437,182 (3,396)	16,231	690,560	119
本社第二工場 (東京都多摩市)	日本 (国際計測器 株式会社)	バランスン グマシン	大型機の 組立工場	86,588	21	280,968 (2,934)	4,556	372,133	
本社第三工場 (東京都多摩市)	日本 (国際計測器 株式会社)	電気サーボ モータ式振動 試験機	大型機の 組立工場	744,042	11,319	494,124 (3,051)	4,339	1,253,827	

##### (2) 国内子会社

平成30年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	製品分類別	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
					建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
東伸工業 株式会社	本社工場 (東京都 多摩市)	日本 (東伸工業 株式会社)	材料試験機	材料試験機 の組立工場			( )	417	417	24
東伸工業 株式会社	茨城工場 (茨城県 古河市)	日本 (東伸工業 株式会社)	材料試験機	材料試験機 の組立工場	278		53,348 (3,413)		53,626	2

(注1) 東伸工業株式会社は、当社の本社第三工場の建物の一部を賃借しております。なお、年間賃借料は25,440千円となっております。

(注2) 東伸工業株式会社の本社工場及び茨城工場における帳簿価額は、減損損失計上後の金額であります。

##### (3) 在外子会社

平成30年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	製品分類別	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
					建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
KOREA KOKUSAI CO.,LTD.	本社工場 (韓国大邱 広域市)	韓国	バランスン グマシン 電気サーボ モータ式振動 試験機 シャフト歪自 動矯正機 その他	全製品 組立工場	103,019	8,589	42,663 (1,740)	11,779	166,052	35
高技国際 計測器 (上海) 有限公司	本社工場 (中国 上海市)	中国	バランスン グマシン シャフト歪自 動矯正機 その他	全製品 組立工場	83,259	2,535	(4,000) (注1)	1,669	87,464	50

(注1) 借地権(50年契約)であり、無形固定資産として12,132千円を計上しております。

(注2) 上記以外の子会社については、重要性がないため記載しておりません。

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	21,200,000
計	21,200,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月25日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,200,000	14,200,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	14,200,000	14,200,000	-	-

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成17年5月20日(注)	7,100,000	14,200,000	-	1,023,100	-	936,400

(注) 株式分割  
 平成17年5月20日付をもって1株を2株に分割しております。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	9	20	20	33	6	5,669	5,757	-
所有株式数(単元)	-	18,373	1,551	34,233	8,942	33	78,835	141,967	3,300
所有株式数の割合(%)	-	12.94	1.09	24.11	6.30	0.02	55.53	100.00	-

(注) 自己株式184,574株は、「個人その他」に1,845単元、「単元未満株式の状況」に74株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
松本繁興産株式会社	東京都武蔵野市吉祥寺南町1丁目6番18号 ルネ吉祥寺501号	2,960,000	21.12
松本 繁	東京都武蔵野市	2,672,000	19.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	869,200	6.20
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ 東京支店)	BAHNHOFSTRASSE 45, 8001 ZURICH, SWITZERLAND (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	605,200	4.32
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	460,000	3.28
株式会社K E C	東京都中央区八丁堀1丁目9-6	330,000	2.35
国際計測器従業員持株会	東京都多摩市永山六丁目21番1号	278,900	1.99
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命証券管理部内	160,000	1.14
宮下 博至	東京都多摩市	150,000	1.07
西尾 美敏	東京都足立区	148,000	1.06
計		8,633,300	61.60

(注1) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社 869,200株  
 (投資信託設定分 851,300株 年金信託設定分 17,900株)

(注2) 上記のほか、当社保有の自己株式 184,574 株があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 184,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,012,200	140,122	-
単元未満株式	普通株式 3,300	-	-
発行済株式総数	14,200,000	-	-
総株主の議決権	-	140,122	-

(注) 「単元未満株式」には自己株式が74株含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 国際計測器株式会社	東京都多摩市永山 六丁目21番1号	184,500	-	184,500	1.30
計	-	184,500	-	184,500	1.30

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	184,574	-	184,574	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当社は株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付けております。配当を決定するにあたりましては、安定的な経営基盤の強化を図り、業績及び配当性等を総合的に勘案し、安定かつ継続的な配当を行うことを基本方針としております。

この方針のもと、当期末配当金は1株当たり15円とし、中間配当金（15円）と合わせて年間30円といたしました。

内部留保金につきましては、経営基盤の充実強化並びに今後の事業展開に役立てていくこととしております。

なお、当社は、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

また、毎事業年度における剰余金の配当につきましては、中間配当と期末配当の年2回とし、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会とする旨を定款に定めております。

（注）基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）
平成29年11月6日取締役会決議	210,231	15
平成30年6月22日定時株主総会決議	210,231	15

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	1,466	2,155	2,039	1,282	1,285
最低(円)	632	1,030	1,150	727	794

（注）最高・最低株価は、平成25年7月15日以前は大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであり、平成25年7月16日以降は東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	1,285	1,269	1,180	1,156	1,102	1,010
最低(円)	1,163	1,100	1,073	1,085	952	930

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。



5 【役員の状況】

男性12名 女性0名 (役員のうち女性の比率 - %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		松本 繁	昭和17年4月22日生	昭和44年6月 当社を設立し、取締役就任 昭和54年7月 当社代表取締役社長 昭和60年5月 松本繁興産株式会社代表取締役(現任) 昭和62年11月 KOKUSAI INC.代表取締役(現任) 平成10年3月 上海松雲国際計測器有限公司董事長 平成10年4月 当社海外事業本部長 平成10年12月 孝感松林国際計測器有限公司董事(現任) 平成11年6月 KOREA KOKUSAI CO.,LTD.代表取締役(現任) 平成14年10月 高技国際計測器(上海)有限公司董事長(現任) 平成18年2月 Thai Kokusai CO.,LTD.代表取締役(現任) 平成21年12月 松林国際試験機(武漢)有限公司董事長 平成29年6月 当社代表取締役会長(現任)	(注)3	2,672
代表取締役 社長		松本 博司	昭和29年12月24日生	昭和54年11月 当社入社 平成元年6月 当社総務部長 平成10年6月 当社取締役、総務部長 平成15年6月 当社取締役退任 平成16年6月 当社取締役、総務部長 平成22年3月 東伸工業株式会社代表取締役(現任) 平成29年6月 当社代表取締役社長(現任)	(注)3	140
取締役	技術本部長	田代 和義	昭和29年9月9日生	昭和48年4月 ジェコー株式会社入社 昭和52年2月 当社入社 平成6年4月 当社第一製造技術部長 平成16年4月 高技国際計測器(上海)有限公司技術本部長 平成17年6月 当社取締役、第一製造技術部長 平成19年4月 当社取締役、技術開発部長 平成29年5月 当社取締役、技術本部長(現任)	(注)3	60
取締役	管理本部長	松本 進一	昭和34年1月23日生	昭和56年4月 株式会社寿屋入社 平成9年10月 当社入社、九州営業所長 平成11年6月 当社生産管理部次長 平成21年6月 当社生産管理部長 平成21年6月 当社取締役、生産管理部長(現任) 平成29年6月 当社取締役、管理本部長(現任)	(注)3	30
取締役	技術本部 副本部長	村内 一宏	昭和34年11月24日生	昭和57年4月 当社入社 平成12年4月 当社技術開発部次長 平成18年4月 当社第三製造技術部長 平成21年6月 当社取締役、第三製造技術部長 平成21年7月 当社取締役、第二技術部長(現任) 平成29年5月 当社取締役、技術本部副本部長(現任)	(注)3	14
取締役	-	鈴木 三郎	昭和28年5月27日生	昭和52年4月 当社入社 平成元年4月 当社大阪営業所長 平成7年4月 国際計測器株式会社(韓国)取締役、副社長 平成12年4月 KOREA KOKUSAI CO.,LTD.取締役、副社長(現任) 平成23年6月 当社取締役(現任)	(注)3	42
取締役	-	小椋 一雄	昭和29年9月13日生	昭和50年4月 当社入社 平成5年4月 当社海外部次長 平成14年4月 当社第三製造技術部長 平成18年4月 高技国際計測器(上海)有限公司総経理 平成22年4月 高技国際計測器(上海)有限公司副総経理 平成23年6月 当社取締役(現任) 平成30年4月 高技国際計測器(上海)有限公司総経理(現任)	(注)3	70

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	営業本部長 兼 名古屋営業 所長	石倉 純一	昭和28年11月15日生	昭和53年4月 平成9年6月 平成11年4月 平成12年6月 平成21年4月 平成22年5月 平成23年6月 平成28年6月 平成29年7月	当社入社 当社地震振動計測事業部長 当社生産管理部長 当社取締役、生産管理部長 当社取締役、名古屋営業所長 当社取締役、第二営業部長 当社名古屋営業所長 当社取締役、名古屋営業所長 当社取締役、営業本部長兼名古屋営業所長 (現任)	(注)3	40
取締役	-	本田 功	昭和16年6月1日生	昭和36年4月 昭和38年10月 昭和49年12月 平成26年11月 平成27年6月	東京芝浦電気株式会社入社 (現株式会社東芝) 日産電業有限会社入社 株式会社三真を設立し、代表取締役就任 株式会社三真取締役会長(現任) 当社取締役(現任)	(注)3	28
常勤監査役	-	渡會 賢二	昭和25年7月20日生	昭和48年4月 平成9年5月 平成22年6月 平成26年3月 平成26年6月	中嶋税務会計事務所入所 当社入社 当社総務部次長 東伸工業株式会社監査役(現任) 当社常勤監査役(現任)	(注)4	11
監査役	-	細田 法男	昭和25年7月23日生	昭和48年4月 昭和57年7月 平成13年6月	藤野税理士事務所入所 税理士資格取得により細田税理士事務所を 開設 当社監査役(現任)	(注)5	-
監査役	-	斎藤 一彦	昭和31年8月23日生	昭和61年4月 昭和63年4月 平成4年4月 平成18年6月 平成21年4月	最高裁判所司法研修所入所 弁護士登録(東京弁護士会) 高木・巻之内法律事務所入所 岡田・斎藤法律事務所開設 当社監査役(現任) 斎藤総合法律事務所開設	(注)4	-
計							3,107

- (注) 1 取締役本田功氏は、社外取締役であります。  
 2 監査役細田法男氏及び斎藤一彦氏は、社外監査役であります。  
 3 取締役松本繁氏、松本博司氏、田代和義氏、松本進一氏、村内一宏氏、鈴木三郎氏、小椋一雄氏、石倉純一氏  
 及び本田功氏の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総  
 会終結の時までであります。  
 4 監査役渡會賢二氏及び斎藤一彦氏の任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成34年3月期  
 に係る定時株主総会終結の時までであります。  
 5 監査役細田法男氏の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主  
 総会終結の時までであります。  
 6 取締役管理本部長松本進一氏は代表取締役社長松本博司氏の実弟であります。  
 7 監査役細田法男氏につきましては、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。  
 8 法令に定める監査役員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任  
 しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (千株)
宮下 博至	昭和19年10月31日生	昭和40年4月 昭和46年6月 昭和54年6月 昭和62年8月 平成10年6月 平成29年7月	株式会社国際機械振動研究所入社 当社入社、技術開発部長 日本ビブロン株式会社代表取締役 当社取締役、技術開発部長 当社常務取締役、技術本部長 当社技術本部 顧問(現任)	150

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的考え方は、株主及び投資家重視の基本方針のもとに、選択と集中を進め、事業環境の変化に迅速に対応できる意思決定及び判断が可能な、健全かつ透明性のある経営体制を確立することにあります。

また、コーポレート・ガバナンスが有効に機能することが求められる中、経営内容の公正性と透明性を高めるため、積極的かつ迅速な情報開示に努めるとともに、インターネットを通じて財務情報等の提供を行うなど幅広い情報開示にも努めております。

#### 企業統治の体制

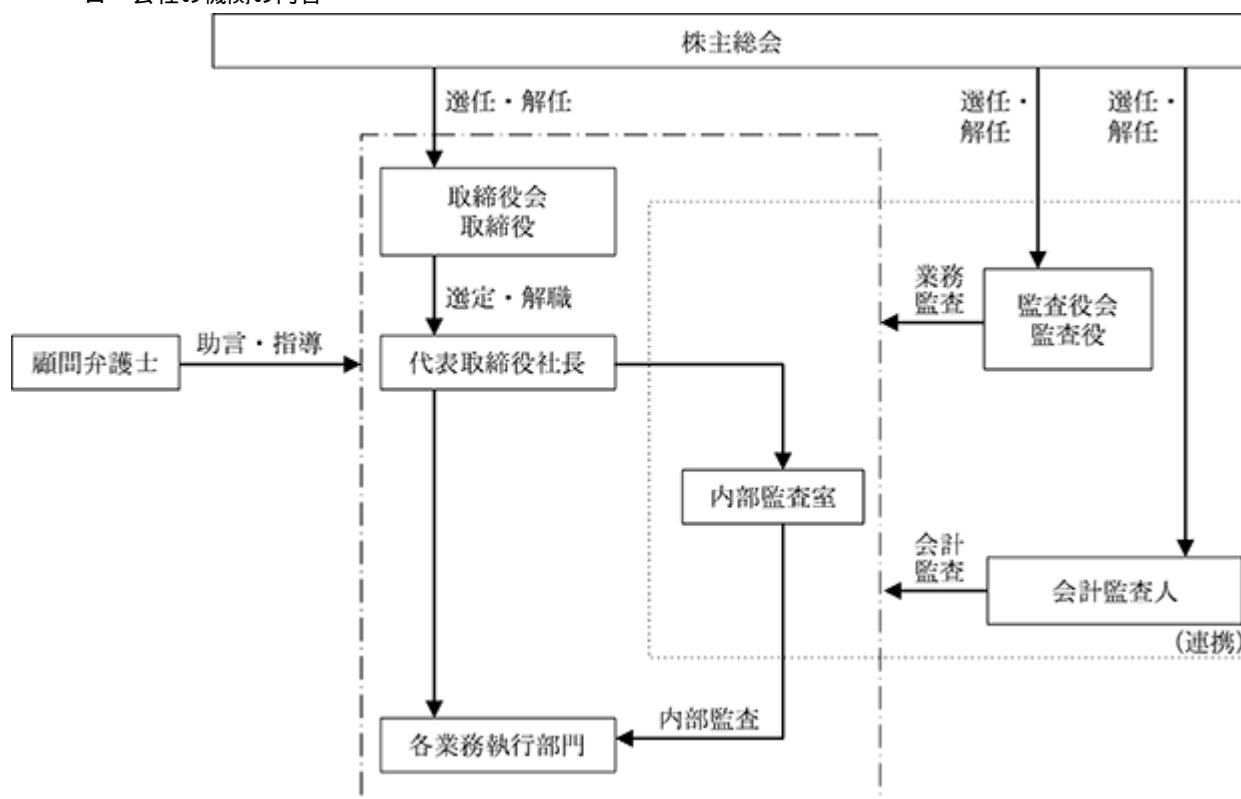
##### イ 会社の機関の基本説明

当社は、監査役制度を採用しております。当社の監査役は、監査役会を定期的開催しており、各々の業務遂行の結果を協議し、実効性ある監査が行えるようにしているとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、経営の意思決定や取締役の業務執行状況を監査しております。なお、監査役は3名(平成30年6月25日現在)で、うち2名が会社法第2条第16号に定める社外監査役であることから、半数以上の監査役が社外監査役であることにより、監査機能の面において相応の独立性をもって機能する体制が整っていると考えております。

当社は、毎月定例で取締役会を開催するとともに、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項及び経営に関する重要事項について意思決定を行っております。なお、取締役は9名(平成30年6月25日現在)で、うち社外取締役は1名であります。

当社は、会社法第427条第1項に基づき、社外取締役及び社外監査役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役及び社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

##### ロ 会社の機関の内容



#### ハ 当社の機関の内容及び内部統制システムの整備状況

当社の内部統制システムといたしましては、牽制組織として代表取締役社長直属の内部監査室を設置しております。内部監査室におきましては、業務執行について客観性と公正性をもって内部監査を行っております。

#### ニ リスク管理体制の整備の状況

当社は、事業活動全般にわたり生じ得る様々なリスクのうち、経営戦略上のリスクについては、事前に総務部門及び関連部門においてリスクの分析やその対応策の検討を行い、必要に応じて役職会議、取締役会においても検討しております。業務運営上のリスクについては、全社横断的な管理を行う内部監査室を中心とし、関係する役職員が出席する経営会議において、リスクマネジメント活動の計画立案・実施・報告を行う方針であります。

#### ホ 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

総務部を管理部門として、子会社の事業計画及び実績を把握し、関連部署と連携しながら指導、育成に努め、子会社の業務の適正性を確保しております。

#### ヘ 取締役の定数

当社の取締役は、13名以内とする旨定款で定めております。

#### ト 取締役の選任の決議要件

当社は、株主総会の決議によって選任するものとし、当該決議は議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また当社は、取締役の選任については、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

#### チ 自己株式の取得

当社は、機動的な資本政策の遂行を可能にするため、会社法第165条第2項の規定により取締役会の決議をもって自己株式を買受けることができる旨定款に定めております。

#### リ 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議によって毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、剰余金の配当（中間配当金）をすることができる旨定款に定めております。

#### ヌ 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項の規定による株主総会の決議は、定款に別段の定めがある場合を除き、当該株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

#### 内部監査及び監査役監査

当社の内部監査につきましては、内部監査室において業務監査及び内部統制監査を実施し、監査結果のフィードバックを行い、指摘事項の内部統制の改善状況に関してモニタリングすることにより業務の管理・統制の徹底に努めております。また、監査結果につきましては、取締役会や監査役会においても報告を行っております。なお、内部監査室の人員は1名であります。必要に応じて他部門の人員との連携を図っております。

監査役監査につきましては、各監査役は取締役会に出席し、経営の意思決定機関の監視を行うほか、業務の執行を常に監視しております。常勤監査役を中心とした各監査役が、互いに連携し、会社の内部統制状態を監視して問題点の把握・指摘・改善勧告を行っております。また、社外監査役には、財務・会計に相当の見識を有する税理士及び法務に相当の見識を有する弁護士を選任し、財務・会計及び法務の専門家としての客観的な立場から監査を行っております。

監査役と内部監査室は、必要に応じて会計監査人と情報交換を行っております。このような関係を通じて、効果的かつ効率的な監査を実施しております。

## 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名で、社外監査役は2名であります。

社外取締役の本田功氏は、当社の株式を所有しており、その株式数は、「第4 提出会社の状況 5 役員の状況」の所有株式数の欄に記載のとおりであります。社外監査役2名と当社との間には人的関係や資本的關係、取引関係及び利害関係はありません。

社外監査役は、社外からの独立した立場として取締役会に出席し経営の意思決定を監視することで、取締役会の意思決定を監視する機能を担っております。また、監査役会の半数以上が社外監査役であることから意思決定の監視は十分に行われていると考えております。

社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針はないものの、選任にあたっては、上場証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

社外取締役の本田功氏は、長年にわたり株式会社三真の代表取締役を務められており、経営者としての豊富な経験と幅広い見識をもとに、当社の経営を監督していただくとともに、当社の経営全般に助言を頂戴することによりコーポレート・ガバナンス強化に寄与していただくことを期待して社外取締役に選任しております。

社外監査役2名のうち、細田法男氏は税理士であり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、専門的及び客観的な立場からの監査を期待して社外監査役に選任しております。斎藤一彦氏は弁護士であり、法務等に関する幅広い知見を有しており、専門的及び客観的な立場からの監査を期待して社外監査役に選任しております。

当社と社外取締役の本田功氏が取締役会長を務める株式会社三真との間で仕入れに係る取引があります。その他特筆すべき人的関係や資本的關係、取引関係及び利害関係はありません。当社と社外監査役の他の兼職先との間には、特筆すべき人的関係や資本的關係、取引関係及び利害関係はありません。

## 会計監査の状況

当社は、有限責任監査法人トーマツと金融商品取引法及び会社法に基づく監査契約を締結し、同監査法人の会計監査を受けております。当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、同監査法人に所属する茂木浩之氏、植木拓磨氏の2名であります。また、監査業務に係る補助者の構成については、公認会計士6名、会計士補等2名となっております。なお、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には特別の利害関係はありません。

## 役員報酬の内容

### イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	186,444	149,610	-	-	36,834	11
監査役 (社外監査役を除く。)	15,640	12,560	-	-	3,080	2
社外役員	5,400	5,400	-	-	-	3

(注1) 上記報酬等の総額には、当事業年度に計上した役員退職慰労引当金繰入額8,747千円(取締役8,187千円、監査役560千円)が含まれております。

(注2) 退職慰労金には、前事業年度及び当事業年度に退任した取締役3名及び監査役1名に対する支給額を含んでおります。

### ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

八 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額（千円）	対象となる役員の員数（名）	内容
46,843	5	使用人に係る給与

二 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は役員の報酬等の額の決定に関する基本方針を定めておりません。状況を踏まえた機動的な判断をすることとしております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 7 銘柄  
 貸借対照表計上額の合計額 583,668千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
日特エンジニアリング株式会社	137,000	341,267	「第2 事業の状況 4 経営上の重要な契約等」に記載のとおり、取引関係の円滑化を目的としたものであります。
株式会社みずほフィナンシャルグループ	39,460	8,049	事業上の関係強化のためであります。
キャノン株式会社	1,176	4,085	事業上の関係強化のためであります。
株式会社コンコルディア・フィナンシャルグループ	3,636	1,873	事業上の関係強化のためであります。
イーグル工業株式会社	1,050	1,586	事業上の関係強化のためであります。
IMV株式会社	4,000	1,604	事業上の関係強化のためであります。
ソーダニッカ株式会社	1,100	552	事業上の関係強化のためであります。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
日特エンジニアリング株式会社	137,000	564,440	「第2 事業の状況 4 経営上の重要な契約等」に記載のとおり、取引関係の円滑化を目的としたものであります。
株式会社みずほフィナンシャルグループ	39,460	7,552	事業上の関係強化のためであります。
キャノン株式会社	1,207	4,653	事業上の関係強化のためであります。
株式会社コンコルディア・フィナンシャルグループ	3,636	2,134	事業上の関係強化のためであります。
イーグル工業株式会社	1,050	1,959	事業上の関係強化のためであります。
IMV株式会社	4,000	2,088	事業上の関係強化のためであります。
ソーダニッカ株式会社	1,100	840	事業上の関係強化のためであります。

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
提出会社	40,000	-	41,000	-
合計	40,000	-	41,000	-

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社は会計監査人に対する監査報酬を決定するにあたり、会計監査人より提示される監査計画の内容をもとに、監査工数等の妥当性を勘案、協議し、監査役会の同意を得た上で決定することとしております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。



## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	* 1 4,110,151	* 1 3,868,953
受取手形及び売掛金	3,838,853	* 4 4,384,803
商品及び製品	320,244	204,371
仕掛品	1,881,064	1,502,354
原材料及び貯蔵品	601,582	565,807
繰延税金資産	200,885	182,195
未収還付法人税等	-	2,955
その他	232,648	168,734
貸倒引当金	6,507	6,669
流動資産合計	11,178,922	10,873,505
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	* 1 2,456,580	* 1 2,462,538
機械装置及び運搬具	231,136	231,664
土地	* 1 1,308,500	* 1 1,308,286
リース資産	3,036	3,036
その他	209,730	238,032
減価償却累計額	* 3 1,439,736	* 3 1,546,386
有形固定資産合計	2,769,248	2,697,171
無形固定資産		
その他	52,641	54,564
無形固定資産合計	52,641	54,564
投資その他の資産		
投資有価証券	* 1, * 2 360,045	* 1, * 2 584,808
長期貸付金	11,487	12,938
繰延税金資産	186	4,633
保険積立金	1,864,280	1,739,986
その他	344,909	316,184
貸倒引当金	133,338	95,187
投資その他の資産合計	2,447,571	2,563,363
固定資産合計	5,269,462	5,315,099
資産合計	16,448,384	16,188,605

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,805,321	1,828,012
短期借入金	* 1 1,090,000	* 1 890,000
1年内返済予定の長期借入金	* 1 354,774	* 1 242,168
リース債務	896	-
未払法人税等	314,632	262,251
賞与引当金	124,490	116,927
製品保証引当金	131,267	103,254
前受金	886,909	670,338
その他	515,858	320,776
流動負債合計	5,224,149	4,433,729
固定負債		
長期借入金	* 1 763,264	* 1 596,966
繰延税金負債	205,539	282,016
役員退職慰労引当金	182,783	133,176
退職給付に係る負債	222,504	220,491
資産除去債務	11,455	11,694
固定負債合計	1,385,546	1,244,343
負債合計	6,609,696	5,678,073
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,023,100	1,023,100
資本剰余金	936,400	936,400
利益剰余金	7,612,986	8,130,183
自己株式	150,994	150,994
株主資本合計	9,421,491	9,938,688
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	210,949	366,805
為替換算調整勘定	125,307	105,803
その他の包括利益累計額合計	336,256	472,608
非支配株主持分	80,940	99,234
純資産合計	9,838,688	10,510,532
負債純資産合計	16,448,384	16,188,605

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高	11,088,506	11,481,607
売上原価	* 1 7,281,257	* 1 7,448,912
売上総利益	3,807,249	4,032,695
販売費及び一般管理費		
製品保証引当金繰入額	70,533	60,740
役員報酬	220,106	158,823
給料手当及び賞与	797,176	705,240
賞与引当金繰入額	49,394	46,412
退職給付費用	24,781	24,261
役員退職慰労引当金繰入額	10,080	8,747
運賃	247,363	277,817
減価償却費	36,860	33,892
研究開発費	* 2 62,556	* 2 25,248
その他	1,328,435	1,182,475
販売費及び一般管理費合計	2,847,287	2,523,660
営業利益	959,961	1,509,035
営業外収益		
受取利息及び配当金	45,071	40,393
受取事務手数料	2,960	2,606
貸倒引当金戻入額	36,427	38,060
その他	15,206	15,307
営業外収益合計	99,666	96,367
営業外費用		
支払利息	15,182	10,688
売上債権売却損	5,439	7,017
為替差損	60,076	105,506
支払手数料	4,250	20,733
保険解約損	13,900	60,364
その他	3,599	242
営業外費用合計	102,448	204,552
経常利益	957,179	1,400,850
税金等調整前当期純利益	957,179	1,400,850
法人税、住民税及び事業税	366,022	500,316
法人税等調整額	27,090	20,415
法人税等合計	393,112	520,731
当期純利益	564,067	880,118
非支配株主に帰属する当期純利益	16,175	12,535
親会社株主に帰属する当期純利益	547,891	867,582

【連結包括利益計算書】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益	564,067	880,118
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	145,513	155,856
為替換算調整勘定	45,012	13,745
持分法適用会社に対する持分相当額	1,597	-
その他の包括利益合計	* 1 98,903	* 1 142,110
包括利益	662,970	1,022,229
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	647,987	1,003,934
非支配株主に係る包括利益	14,983	18,294

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,023,100	936,400	7,835,943	150,994	9,644,448
当期変動額					
剰余金の配当			770,848		770,848
親会社株主に帰属する 当期純利益			547,891		547,891
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	222,957	-	222,957
当期末残高	1,023,100	936,400	7,612,986	150,994	9,421,491

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	65,435	170,725	236,161	65,956	9,946,566
当期変動額					
剰余金の配当					770,848
親会社株主に帰属する 当期純利益					547,891
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	145,513	45,417	100,095	14,983	115,079
当期変動額合計	145,513	45,417	100,095	14,983	107,877
当期末残高	210,949	125,307	336,256	80,940	9,838,688

当連結会計年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,023,100	936,400	7,612,986	150,994	9,421,491
当期変動額					
剰余金の配当			350,385		350,385
親会社株主に帰属する 当期純利益			867,582		867,582
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	517,197	-	517,197
当期末残高	1,023,100	936,400	8,130,183	150,994	9,938,688

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	210,949	125,307	336,256	80,940	9,838,688
当期変動額					
剰余金の配当					350,385
親会社株主に帰属する 当期純利益					867,582
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	155,856	19,504	136,352	18,294	154,646
当期変動額合計	155,856	19,504	136,352	18,294	671,843
当期末残高	366,805	105,803	472,608	99,234	10,510,532

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	957,179	1,400,850
減価償却費	122,438	116,045
貸倒引当金の増減額 ( は減少 )	36,111	38,125
賞与引当金の増減額 ( は減少 )	44,975	7,535
製品保証引当金の増減額 ( は減少 )	52,822	27,651
退職給付に係る負債の増減額 ( は減少 )	11,302	2,007
役員退職慰労引当金の増減額 ( は減少 )	10,080	49,607
受取利息及び受取配当金	45,071	40,393
支払利息	15,182	10,688
為替差損益 ( は益 )	73,383	48,623
売上債権の増減額 ( は増加 )	268,097	549,040
たな卸資産の増減額 ( は増加 )	255,537	529,687
仕入債務の増減額 ( は減少 )	168,753	22,558
前受金の増減額 ( は減少 )	289,914	217,689
その他	105,296	33,707
小計	1,158,244	1,162,696
利息及び配当金の受取額	44,138	39,694
利息の支払額	14,996	10,605
法人税等の支払額	496,290	553,176
営業活動によるキャッシュ・フロー	691,096	638,609
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	1,497,951	1,253,016
定期預金の払戻による収入	1,188,124	1,201,216
有形固定資産の取得による支出	32,334	37,532
無形固定資産の取得による支出	257	4,160
貸付けによる支出	680	5,280
貸付金の回収による収入	9,610	3,981
保険積立金の積立による支出	177,961	169,339
保険積立金の解約による収入	158,029	233,268
その他	13,746	2,457
投資活動によるキャッシュ・フロー	367,168	28,404
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 ( は減少 )	200,000	200,000
長期借入れによる収入	450,000	100,000
長期借入金の返済による支出	421,102	378,904
配当金の支払額	770,057	350,600
リース債務の返済による支出	1,195	896
財務活動によるキャッシュ・フロー	942,355	830,400
現金及び現金同等物に係る換算差額	122,477	67,973
現金及び現金同等物の増減額 ( は減少 )	740,905	288,170
現金及び現金同等物の期首残高	3,188,780	2,447,874
現金及び現金同等物の期末残高	* 1 2,447,874	* 1 2,159,704

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 6社

連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 1社

関連会社名 孝感松林国際計測器有限公司

(2) 持分法適用会社は、決算日が連結決算日と異なるため、当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、KOKUSAI INC.、KOKUSAI Europe GmbH.、高技国際計測器(上海)有限公司及びThai Kokusai CO., LTD.の決算日は12月31日、KOREA KOKUSAI CO.,LTD.及び東伸工業株式会社の決算日は3月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、高技国際計測器(上海)有限公司については連結決算日で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

その他の連結子会社については、各子会社の決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

a 製品・仕掛品

主として個別法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下の方法)

b 原材料

主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下の方法)

c 貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法。ただし、当社及び国内連結子会社では平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 7年～40年

機械装置及び運搬具 3年～12年

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

当社及び一部連結子会社は、従業員の賞与の支給に備えるため、翌連結会計年度の支給見込額のうち、当連結会計年度の負担額を計上しております。

製品保証引当金

当社及び一部連結子会社は、販売済み製品に対する保証期間中の無償サービス費用に備えるため、過去の発生実績に基づく見積額を計上しております。

役員退職慰労引当金

当社は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び一部連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しており、退職給付債務から年金資産を控除した金額を退職給付に係る負債としております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産及び負債は、在外子会社等の決算日(仮決算日を含む)の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は在外子会社等の期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヵ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。





\* 3 前連結会計年度（平成29年3月31日）  
 減価償却累計額には、減損損失累計額10,093千円が含まれております。

当連結会計年度（平成30年3月31日）  
 減価償却累計額には、減損損失累計額10,093千円が含まれております。

\* 4 期末日満期手形  
 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形	- 千円	14,463千円

(連結損益計算書関係)

\* 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、売上原価に含まれているたな卸資産評価損の内容は、次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
220,529千円	234,380千円

\* 2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
62,556千円	25,248千円

なお、当期製造費用に含まれる研究開発費はありません。

(連結包括利益計算書関係)

\* 1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	207,559千円	224,642千円
組替調整額	2,083千円	- 千円
税効果調整前	209,642千円	224,642千円
税効果額	64,129千円	68,785千円
その他有価証券評価差額金	145,513千円	155,856千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	45,012千円	13,745千円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	1,597千円	- 千円
その他の包括利益合計	98,903千円	142,110千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	14,200,000	-	-	14,200,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	184,574	-	-	184,574

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月17日 定時株主総会	普通株式	490,539	35	平成28年3月31日	平成28年6月20日
平成28年11月7日 取締役会	普通株式	280,308	20	平成28年9月30日	平成28年11月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	140,154	10	平成29年3月31日	平成29年6月26日

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	14,200,000	-	-	14,200,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	184,574	-	-	184,574

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	140,154	10	平成29年3月31日	平成29年6月26日
平成29年11月6日 取締役会	普通株式	210,231	15	平成29年9月30日	平成29年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	210,231	15	平成30年3月31日	平成30年6月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

\* 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
現金及び預金	4,110,151千円	3,868,953千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 及び担保差入定期預金	1,662,276千円	1,709,248千円
現金及び現金同等物	2,447,874千円	2,159,704千円

(リース取引関係)

1 所有権移転外ファイナンス・リース取引  
 重要性が乏しいため記載を省略しております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
1年内	21,779	24,847
1年超	35,527	25,473
合計	57,306	50,321

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産で運用し、また、資金調達については銀行借入や社債発行によることを基本方針としております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わないことを基本方針としております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに対しては、当社グループの与信管理規程に従い、取引先ごとに取引金額に基づいた与信金額を設定しており、定期的に回収状況をモニタリングしております。

当社グループの事業は個別受注生産であるとともに、主要な取引先には財務体質の安定している大手企業や官公庁が多く、海外企業と取引をする際においては信用状取引をベースとしていることから、信用リスクは低いものと認識しております。

グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されています。当該リスクに対しては、外貨建ての営業債権の金額の範囲内で、為替予約取引等のデリバティブ取引を行い、為替の変動リスクを低減しているとともに、外貨による回収額は外貨建預金口座に預け入れたのちに、為替相場が円安になった際に円建預金口座へ振替を行い、為替の変動リスクの低減を図っております。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価を把握し財務状況等を確認しております。

長期貸付金は従業員に対するものであり、当社グループの貸付金規程に準じて、定期的に回収状況を確認しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内に支払期日が到来し、未払法人税等は、1年以内に納付期限が到来いたします。

有利子負債のうち、短期借入金は運転資金に係るものであり、長期借入金（原則として5年以内）は主に設備投資に係る資金調達によるものですが、安定した手元資金を確保することを目的とするものも含まれております。

営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されていますが、当社グループでは、各社が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

為替の変動リスクを低減するため、デリバティブ取引として通貨オプション取引、為替予約取引を利用しております。

当社グループのデリバティブ取引の契約先はいずれも信用度の高い国内の金融機関であるため、相手方の契約不履行によるリスクはほとんどないものと認識しております。当社グループが利用する通貨オプション取引及び為替予約取引についての基本方針は各社の取締役会で決定され、取引の実行及び管理は各社の総務部が行っており、取引結果については毎月各社の社長に報告しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)参照)。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 資産			
現金及び預金	4,110,151	4,110,151	-
受取手形及び売掛金	3,838,853	3,838,853	-
投資有価証券	360,045	360,045	-
長期貸付金	11,487	11,486	0
(2) 負債			
支払手形及び買掛金	1,805,321	1,805,321	-
短期借入金	1,090,000	1,090,000	-
未払法人税等	314,632	314,632	-
長期借入金	1,118,038	1,117,919	118
(3) デリバティブ取引(*)	-	-	-

(\*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 資産			
現金及び預金	3,868,953	3,868,953	-
受取手形及び売掛金	4,384,803	4,384,803	-
投資有価証券	584,808	584,808	-
長期貸付金	12,938	12,938	-
(2) 負債			
支払手形及び買掛金	1,828,012	1,828,012	-
短期借入金	890,000	890,000	-
未払法人税等	262,251	262,251	-
長期借入金	839,134	838,177	956
(3) デリバティブ取引(*)	-	-	-

(\*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 資産

現金及び預金、並びに 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

投資有価証券

これらの時価は、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格及び取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照ください。

長期貸付金

前連結会計年度の長期貸付金は、信用リスク区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

当連結会計年度の長期貸付金は、個別に回収可能性を勘案し、回収見込額等に基づいて算定しているため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 負債

支払手形及び買掛金、短期借入金、並びに未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成29年3月31日	平成30年3月31日
非上場株式	0	0

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(1) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	4,110,151	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,838,853	-	-	-
長期貸付金	2,260	6,310	2,917	-
合計	7,951,264	6,310	2,917	-

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	3,868,953	-	-	-
受取手形及び売掛金	4,384,803	-	-	-
長期貸付金	3,328	7,442	2,167	-
合計	8,257,085	7,442	2,167	-

(注4) 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超
短期借入金	1,090,000	-	-	-	-	-
長期借入金	354,774	232,164	185,480	185,620	80,000	80,000
合計	1,444,774	232,164	185,480	185,620	80,000	80,000

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超
短期借入金	890,000	-	-	-	-	-
長期借入金	242,168	205,484	208,164	100,004	83,314	-
合計	1,132,168	205,484	208,164	100,004	83,314	-

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1)株式	359,018	55,523	303,495
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	1,027	473	553
	小計	360,045	55,997	304,048
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1)株式	-	-	-
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		360,045	55,997	304,048

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1)株式	583,668	55,643	528,024
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	1,139	473	666
	小計	584,808	56,117	528,690
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1)株式	-	-	-
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		584,808	56,117	528,690

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	680	-	1,440

当連結会計年度(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

該当事項はありません。



(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

なお、当社及び一部連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	233,781千円	222,504千円
退職給付費用	71,418千円	52,883千円
退職給付の支払額	42,282千円	14,699千円
制度への拠出額	40,439千円	40,191千円
為替換算調整	25千円	6千円
退職給付に係る負債の期末残高	222,504千円	220,491千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	514,780千円	545,454千円
年金資産	316,326千円	351,223千円
	198,453千円	194,231千円
非積立型制度の退職給付債務	24,050千円	26,259千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	222,504千円	220,491千円
退職給付に係る負債	222,504千円	220,491千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	222,504千円	220,491千円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度71,418千円 当連結会計年度52,883千円

3 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度6,299千円、当連結会計年度6,608千円であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
(繰延税金資産)		
貸倒引当金	46,238千円	34,537千円
棚卸資産評価損	198,380千円	250,511千円
賞与引当金	38,052千円	35,675千円
未払事業税	15,576千円	14,726千円
製品保証引当金	41,823千円	31,456千円
退職給付に係る負債	93,790千円	97,554千円
役員退職慰労引当金	56,107千円	40,778千円
繰越欠損金	250,647千円	262,150千円
減損損失	6,466千円	5,547千円
その他	72,527千円	61,435千円
繰延税金資産小計	819,609千円	834,373千円
評価性引当額	514,283千円	557,934千円
繰延税金資産合計	305,326千円	276,439千円
(繰延税金負債)		
子会社の留保利益	188,132千円	176,905千円
その他有価証券評価差額金	93,099千円	161,885千円
その他	28,560千円	32,835千円
繰延税金負債合計	309,793千円	371,626千円

繰延税金負債の純額 4,467千円 95,186千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	5.7%	1.3%
子会社との実効税率差異による影響	5.2%	1.7%
法定実効税率変更に伴う差異	- %	2.2%
過年度法人税等	- %	2.2%
評価性引当額	7.6%	3.1%
その他	2.1%	0.9%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.1%	37.2%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

米国において、平成29年12月22日(現地時間)に、平成30年1月1日以降の連邦法人税率を引き下げる税制改革法が成立いたしました。これに伴い、当連結会計年度末の米国子会社における繰延税金資産及び繰延税金負債は、改正後の税率を基礎とした法定実効税率により計算しております。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が31,277千円減少し、同額の法人税等調整額が増加しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、計測器を生産・販売しており、国内においては当社及び東伸工業株式会社が、海外においては米国、韓国、中国等の各地域をKOKUSAI INC. (米国)、KOREA KOKUSAI CO.,LTD. (韓国)、高技国際計測器(上海)有限公司(中国)及びその他の現地法人が、それぞれ担当しております。現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取り扱う製品全般について各地域の顧客に対しての販売活動を中心に事業を展開しております。

したがって、当社は、生産・販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」を「国際計測器株式会社」及び「東伸工業株式会社」に分けた上で、「米国」、「韓国」及び「中国」の5つを報告セグメントとしております。各報告セグメントでは、バランスングマシン、シャフト歪自動矯正機のほか、電気サーボモータ式振動試験機、材料試験機及びその他の製品を生産・販売しております。

## 2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

## 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	日本		米国	韓国	中国	計		
	国際計測器 株式会社	東伸工業 株式会社						
売上高								
外部顧客への売上高	7,804,039	406,458	1,189,037	1,237,572	408,586	11,045,693	42,813	11,088,506
セグメント間の内部 売上高又は振替高	536,300	80	9,634	871,564	162,547	1,580,127	97,132	1,677,260
計	8,340,340	406,538	1,198,672	2,109,136	571,134	12,625,821	139,945	12,765,767
セグメント利益又は 損失( )	862,874	138,924	34,140	392,299	3,324	1,085,432	42,202	1,127,635
セグメント資産	11,436,351	577,584	1,234,791	2,629,752	769,808	16,648,289	203,409	16,851,698
その他の項目								
減価償却費	93,890	564	3,517	8,078	13,943	119,994	2,444	122,438
受取利息	4,636	66	1,504	23,300	10,794	40,301	297	40,598
支払利息	13,729	1,450	-	-	-	15,179	3	15,182
有形固定資産及び 無形固定資産の増加 額	23,570	-	3,171	6,621	204	33,567	994	34,561

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、東南アジア及びヨーロッパ等の現地法人を含んでおります。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	日本		米国	韓国	中国	計		
	国際計測器 株式会社	東伸工業 株式会社						
売上高								
外部顧客への売上高	8,147,324	653,227	1,085,330	1,043,931	474,772	11,404,588	77,019	11,481,607
セグメント間の内部 売上高又は振替高	492,256	-	3,997	701,717	195,807	1,393,778	89,283	1,483,062
計	8,639,581	653,227	1,089,328	1,745,648	670,580	12,798,366	166,302	12,964,669
セグメント利益又は 損失（ ）	1,491,703	30,546	21,634	218,897	4,940	1,653,479	46,202	1,699,682
セグメント資産	11,036,666	639,979	1,160,701	2,330,510	813,645	15,981,502	254,420	16,235,923
その他の項目								
減価償却費	87,995	458	2,738	9,836	11,878	112,908	3,137	116,045
受取利息	2,936	0	2,820	24,377	4,644	34,778	1,290	36,069
支払利息	8,975	1,827	30	-	-	10,833	0	10,833
有形固定資産及び 無形固定資産の増加 額	21,040	558	3,598	9,542	-	34,740	7,443	42,184

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、東南アジア及びヨーロッパ等の現地法人を含んでおります。

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	12,625,821	12,798,366
「その他」の区分の売上高	139,945	166,302
セグメント間取引消去	1,677,260	1,483,062
連結財務諸表の売上高	11,088,506	11,481,607

（単位：千円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	1,085,432	1,653,479
「その他」の区分の利益	42,202	46,202
セグメント間取引消去等（注）	170,455	298,831
連結財務諸表の経常利益	957,179	1,400,850

(注) セグメント間取引消去等には、セグメント間の受取配当金が当連結会計年度については334,227千円、前連結会計年度については147,598千円含まれております。

（単位：千円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	16,648,289	15,981,502
「その他」の区分の資産	203,409	254,420
配分していない全社資産（注）	360,045	584,808
その他の調整額	763,359	632,125
連結財務諸表の資産合計	16,448,384	16,188,605

(注) 配分していない全社資産は、当社での長期投資資金（投資有価証券）であります。

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	119,994	112,908	2,444	3,137	-	-	122,438	116,045
受取利息	40,301	34,778	297	1,290	-	145	40,598	35,923
支払利息	15,179	10,833	3	0	-	145	15,182	10,688
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	33,567	34,740	994	7,443	-	-	34,561	42,184

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	日本	米国	韓国	中国	その他	合計
バランスングマシン	5,050,929	826,102	508,547	271,694	2,831	6,660,105
電気サーボモータ式振動試験機	1,664,633	108,900	455,255	-	-	2,228,790
材料試験機	406,538	-	-	-	-	406,538
シャフト歪自動矯正機	432,080	69,309	196,236	64,784	-	762,410
その他	656,316	184,724	77,533	72,107	39,981	1,030,662
合計	8,210,497	1,189,037	1,237,572	408,586	42,813	11,088,506

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	米州	韓国	中国	その他	合計
3,158,751	1,441,329	1,231,050	2,634,829	2,622,546	11,088,506

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	米国	韓国	中国	その他	合計
2,491,829	5,119	166,983	99,687	5,628	2,769,248

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	日本	米国	韓国	中国	その他	合計
バランスングマシン	5,677,829	700,734	701,118	238,662	36,175	7,354,519
電気サーボモータ式振動試験機	1,417,483	106,234	152,152	6,366	1,832	1,684,069
材料試験機	653,227	-	-	-	-	653,227
シャフト歪自動矯正機	302,691	47,230	129,579	148,969	-	628,470
その他	749,320	231,131	61,082	80,775	39,011	1,161,320
合計	8,800,552	1,085,330	1,043,931	474,772	77,019	11,481,607

## 2 地域ごとの情報

### (1) 売上高

(単位：千円)

日本	米州	韓国	中国	その他	合計
3,518,977	1,327,368	1,157,693	2,907,193	2,570,374	11,481,607

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

### (2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	米国	韓国	中国	その他	合計
2,423,450	5,834	166,052	92,021	9,812	2,697,171

## 3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

### 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

### 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

### 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	株式会社三真(注3)	東京都狛江市	30,000	電気・電子部品の販売	-	原材料の購入	電気部品等の購入(注1),(注2)	549,168	買掛金	36,219

(注1) 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2) 取引条件は一般の取引先と同様に決定しております。

(注3) 当社社外取締役本田功氏及びその近親者が議決権の100.0%を保有する会社であります。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	株式会社三真(注3)	東京都狛江市	30,000	電気・電子部品の販売	-	原材料の購入	電気部品等の購入(注1),(注2)	501,643	買掛金	15,761

(注1) 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2) 取引条件は一般の取引先と同様に決定しております。

(注3) 当社社外取締役本田功氏及びその近親者が議決権の100.0%を保有する会社であります。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	696円21銭	742円84銭
1株当たり当期純利益	39円09銭	61円90銭

(注1) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(注2) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	547,891	867,582
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	547,891	867,582
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,015	14,015

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,090,000	890,000	0.598	-
1年以内に返済予定の長期借入金	354,774	242,168	0.504	-
1年以内に返済予定のリース債務	896	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	763,264	596,966	0.482	平成30年～平成35年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	-	-	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	2,208,934	1,729,134	-	-

(注1) 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

(注2) 長期借入金の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	205,484	208,164	100,004	83,314

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	2,209,650	5,085,904	8,260,592	11,481,607
税金等調整前四半期(当期)純利益(千円)	211,190	576,988	1,048,275	1,400,850
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益(千円)	117,364	369,790	663,562	867,582
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	8.37	26.38	47.34	61.90

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益(円)	8.37	18.01	20.96	14.55



## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	* 1 1,558,587	* 1 1,544,026
受取手形	562,240	* 4 560,218
売掛金	* 2 2,441,576	* 2 2,681,128
商品及び製品	341,962	207,822
仕掛品	1,050,094	882,121
原材料及び貯蔵品	486,814	453,336
繰延税金資産	98,172	90,079
未収消費税等	128,258	67,326
その他	* 2 22,124	* 2 17,355
貸倒引当金	290	320
流動資産合計	6,689,541	6,503,095
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	* 1 915,090	* 1 864,390
構築物	8,022	6,357
機械及び装置	12,164	10,133
車両運搬具	14,816	9,571
工具、器具及び備品	23,520	27,635
土地	* 1 1,212,275	* 1 1,212,275
有形固定資産合計	2,185,889	2,130,363
<b>無形固定資産</b>		
借地権	34,725	34,725
ソフトウェア	2,839	4,284
その他	2,346	2,346
無形固定資産合計	39,911	41,356
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	* 1 360,045	* 1 584,808
関係会社株式	431,332	431,332
従業員に対する長期貸付金	11,487	9,167
関係会社長期貸付金	400,000	400,000
投資不動産	251,996	239,043
保険積立金	1,777,877	1,685,457
その他	209,909	122,633
貸倒引当金	532,886	494,450
投資その他の資産合計	2,909,761	2,977,991
固定資産合計	5,135,563	5,149,711
資産合計	11,825,105	11,652,806

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	122,833	44,098
買掛金	* 2 1,584,006	* 2 1,426,754
短期借入金	* 1 840,000	* 1 640,000
1年内返済予定の長期借入金	* 1 354,774	* 1 242,168
未払金	* 2 333,202	* 2 152,213
未払費用	69,828	86,573
未払法人税等	274,863	255,483
前受金	281,386	143,623
預り金	22,216	29,119
賞与引当金	108,699	107,667
製品保証引当金	113,964	87,596
その他	3,420	3,189
<b>流動負債合計</b>	<b>4,109,194</b>	<b>3,218,485</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	* 1 763,264	* 1 596,966
繰延税金負債	16,833	104,914
退職給付引当金	197,549	192,743
役員退職慰労引当金	182,783	133,176
資産除去債務	11,455	11,694
<b>固定負債合計</b>	<b>1,171,885</b>	<b>1,039,494</b>
<b>負債合計</b>	<b>5,281,079</b>	<b>4,257,980</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,023,100	1,023,100
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	936,400	936,400
<b>資本剰余金合計</b>	<b>936,400</b>	<b>936,400</b>
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	32,850	32,850
<b>その他利益剰余金</b>		
繰越利益剰余金	4,491,721	5,186,665
<b>利益剰余金合計</b>	<b>4,524,571</b>	<b>5,219,515</b>
自己株式	150,994	150,994
<b>株主資本合計</b>	<b>6,333,076</b>	<b>7,028,020</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	210,949	366,805
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>210,949</b>	<b>366,805</b>
<b>純資産合計</b>	<b>6,544,025</b>	<b>7,394,826</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>11,825,105</b>	<b>11,652,806</b>

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高	* 1 8,340,340	* 1 8,639,581
売上原価	* 1 5,503,835	* 1 5,579,284
売上総利益	2,836,504	3,060,297
販売費及び一般管理費	* 1, * 2 2,100,396	* 1, * 2 1,802,003
営業利益	736,108	1,258,293
営業外収益		
受取利息及び配当金	* 1 156,681	* 1 341,633
受取家賃	* 1 25,440	* 1 25,440
受取事務手数料	2,583	2,390
貸倒引当金戻入額	31,694	38,406
その他	13,374	13,215
営業外収益合計	229,772	421,086
営業外費用		
支払利息	13,729	8,975
売上債権売却損	5,439	7,017
為替差損	47,474	83,421
支払手数料	4,250	20,733
減価償却費	14,003	12,952
保険解約損	13,694	54,496
その他	4,416	78
営業外費用合計	103,007	187,676
経常利益	862,874	1,491,703
税引前当期純利益	862,874	1,491,703
法人税、住民税及び事業税	278,989	418,985
法人税等調整額	33,249	27,388
法人税等合計	312,239	446,374
当期純利益	550,634	1,045,329

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,023,100	936,400	936,400	32,850	4,711,935	4,744,785
当期変動額						
剰余金の配当					770,848	770,848
当期純利益					550,634	550,634
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	220,213	220,213
当期末残高	1,023,100	936,400	936,400	32,850	4,491,721	4,524,571

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	150,994	6,553,290	66,533	66,533	6,619,824
当期変動額					
剰余金の配当		770,848			770,848
当期純利益		550,634			550,634
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			144,415	144,415	144,415
当期変動額合計	-	220,213	144,415	144,415	75,798
当期末残高	150,994	6,333,076	210,949	210,949	6,544,025

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,023,100	936,400	936,400	32,850	4,491,721	4,524,571
当期変動額						
剰余金の配当					350,385	350,385
当期純利益					1,045,329	1,045,329
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	694,943	694,943
当期末残高	1,023,100	936,400	936,400	32,850	5,186,665	5,219,515

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	150,994	6,333,076	210,949	210,949	6,544,025
当期変動額					
剰余金の配当		350,385			350,385
当期純利益		1,045,329			1,045,329
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			155,856	155,856	155,856
当期変動額合計	-	694,943	155,856	155,856	850,800
当期末残高	150,994	7,028,020	366,805	366,805	7,394,826

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 製品・仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下の方法)

(2) 原材料

移動平均法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下の方法)

(3) 貯蔵品

最終仕入原価法

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15年～38年

機械及び装置 7年～12年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。なお、自社利用目的のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、翌事業年度の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 製品保証引当金

販売済み製品に対する保証期間中の無償サービス費用に備えるため、過去の発生実績に基づく見積額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額及び年金資産残高に基づき計上しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

\* 1 担保提供資産

次のとおり債務の担保に供しております。

(1) 担保に供している資産

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
現金及び預金	343,606千円	343,613千円
建物	1,120,386千円	1,060,142千円
土地	1,212,275千円	1,212,275千円
投資有価証券	7,752千円	7,273千円
計	2,684,020千円	2,623,304千円

(2) 対応する債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	800,000千円	640,000千円
1年内返済予定の長期借入金	233,756千円	167,168千円
長期借入金	528,264千円	446,966千円
計	1,562,020千円	1,254,134千円

\* 2 関係会社に対する資産及び負債

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権または金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	52,162千円	66,232千円
短期金銭債務	214,165千円	101,428千円

3 偶発債務

保証債務

当社の連結子会社である東伸工業株式会社の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
債務保証	250,000千円	250,000千円

\* 4 期末日満期手形

事業年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の事業年度末日満期手形が、事業年度末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形	- 千円	14,463千円

(損益計算書関係)

\* 1 関係会社との取引高の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業取引		
売上高	536,225千円	491,426千円
仕入高	843,295千円	749,423千円
販売費及び一般管理費	197,584千円	175,634千円
営業取引以外の取引高	173,038千円	359,813千円

\* 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
運賃	196,719千円	230,619千円
役員報酬	220,106千円	158,823千円
製品保証引当金繰入額	80,447千円	49,763千円
給料及び手当	357,850千円	258,109千円
賞与引当金繰入額	44,098千円	42,991千円
退職給付費用	10,789千円	8,556千円
役員退職慰労引当金繰入額	10,080千円	8,747千円
減価償却費	19,906千円	19,574千円

おおよその割合

販売費	58.1%	55.7%
一般管理費	41.9%	44.3%

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
子会社株式	431,332	431,332
関連会社株式	0	0
計	431,332	431,332

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
(繰延税金資産)		
貸倒引当金	163,259千円	151,498千円
棚卸資産評価損	156,279千円	198,824千円
賞与引当金	33,544千円	32,967千円
未払事業税	15,576千円	14,726千円
製品保証引当金	35,169千円	26,821千円
退職給付引当金	60,515千円	59,018千円
役員退職慰労引当金	56,107千円	40,778千円
関係会社株式評価損	51,952千円	51,952千円
その他	17,288千円	18,854千円
繰延税金資産小計	589,693千円	595,442千円
評価性引当額	413,120千円	446,344千円
繰延税金資産合計	176,573千円	149,097千円
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	93,099千円	161,885千円
その他	2,133千円	2,047千円
繰延税金負債合計	95,233千円	163,932千円
繰延税金資産(負債)の純額	81,339千円	14,834千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	- %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	6.0%	- %
住民税均等割等	0.7%	- %
評価性引当額	2.8%	- %
外国子会社からの配当等に係る外国源泉税	0.9%	- %
外国子会社から受ける剰余金の配当等の益金不算入	5.0%	- %
その他	0.0%	- %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	36.2%	- %

(注) 当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。



【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	1,716,849	-	-	50,700	1,716,849	852,459
	構築物	34,777	-	-	1,664	34,777	28,419
	機械及び装置	42,455	-	-	2,031	42,455	32,322
	車両運搬具	67,712	-	4,823	5,223	62,889	53,318
	工具、器具及び備品	107,118	17,640	2,955	13,467	121,803	94,167
	土地	1,212,275	-	-	-	1,212,275	-
	計	3,181,188	17,640	7,778	73,087	3,191,050	1,060,687
無形固定資産	借地権	34,725	-	-	-	34,725	-
	ソフトウェア	8,360	3,400	-	1,955	11,760	7,475
	その他	2,346	-	-	-	2,346	-
	計	45,432	3,400	-	1,955	48,832	7,475
投資その他の資産	投資不動産	314,369	-	-	12,952	314,369	75,326
	計	314,369	-	-	12,952	314,369	75,326

(注) 「当期首残高」、「当期末残高」については、取得価額により記載しております。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	533,176	2,220	40,626	494,770
賞与引当金	108,699	107,667	108,699	107,667
製品保証引当金	113,964	87,596	113,964	87,596
役員退職慰労引当金	182,783	8,747	58,354	133,176

(注) 引当金の計上理由及び額の算定方法については、「注記事項」(重要な会計方針)に記載しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 公告掲載URL <a href="http://www.kokusaikk.co.jp/">http://www.kokusaikk.co.jp/</a> ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主に対する特典	なし

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第48期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

平成29年6月26日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月26日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び確認書

第49期第1四半期（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）

平成29年8月8日関東財務局長に提出。

第49期第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）

平成29年11月8日関東財務局長に提出。

第49期第3四半期（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）

平成30年2月9日関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

平成29年6月27日関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月19日

国際計測器株式会社  
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 茂 木 浩 之

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 植 木 拓 磨

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている国際計測器株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、国際計測器株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、国際計測器株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、国際計測器株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年6月19日

国際計測器株式会社  
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 茂 木 浩 之

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 植 木 拓 磨

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている国際計測器株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第49期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、国際計測器株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。